

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	野田 明	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。 主に Reading 力を伸ばすことを目的とします。高校までに学習した文法事項、構文などを実際の文章の中で確認しつつ、その応用と読解力の強化を図ります。					
到達目標	英文の大意を把握するとともに、重要部分は正確に訳すことができる。また、表現やニュアンスの違いも理解することができる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	イントロダクション		16	Dr. Shinya Yamanaka 前半		
2	The Washington Cherry Trees 前半		17	Dr. Shinya Yamanaka 後半		
3	The Washington Cherry Trees 後半		18	Made in Japan 前半		
4	Modern Day Japanese Knight 前半		19	Made in Japan 後半		
5	Modern Day Japanese Knight 後半		20	Youth 前半		
6	Mona Lisa 前半		21	Youth 後半		
7	Mona Lisa 後半 小テスト		22	Deadly Progress 前半		
8	Space Shuttle Challenger 前半		23	Deadly Progress 後半 小テスト		
9	Space Shuttle Challenger 後半		24	John Matthew Ottoson 前半		
10	Honesty Wins 前半		25	John Matthew Ottoson 後半		
11	Honesty Wins 後半		26	It' s a No-brainer! 前半		
12	he Miracle on the Hudson 前半		27	It' s a No-brainer! 後半		
13	he Miracle on the Hudson 後半		28	The Genius in You 前半		
14	The Family Bridge 前半		29	The Genius in You 後半		
15	The Family Bridge 後半 小テスト		30	学修内容の振り返り		
予習内容 復習内容	決められた範囲について、知らない単語の意味については辞書で調べてから出席する。 授業後は学習した英文の内容が理解できたかを確認しておく。					
教科書	松尾秀樹・Stephen Edward Rife『リーディング・コンパス 英文読解の総合演習』（三修社） 進度に応じて題材を追加します。					
成績評価	授業での取り組み、発表を 30%、前期・後期の学期末に行う筆記試験を 70%として評価します。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	萩 三恵	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	本授業では文構造を見抜き、文法力を高めることによりリーディング力向上につなげます。なんとなく単語の意味をつなげて文の意味を取ろうとせず、主語と述語の対応や、修飾語句の範囲などを常に押さえながら長文読解を行います。さらに、ユニット毎に小テストを実施して各ユニットの理解度を確認します。なお、正答と解説は小テスト返却時に行います。					
到達目標	① 英語の基本的な構造を十分に理解できる。 ② 既習の英文法の重要事項についてさらに理解を深めることができる。 ③ やさしい英文を速読し理解できる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス	16	Unit 8 Listening Part			
2	Unit 1 Listening Part	17	Unit 8 Reading Part			
3	Unit 1 Reading Part	18	Unit 9 Listening Part、Unit 8 小テスト			
4	Unit 2 Listening Part、Unit 1 小テスト	19	Unit 9 Reading Part			
5	Unit 2 Reading Part	20	Unit10 Listening Part、Unit 9 小テスト			
6	Unit 3 Listening Part、Unit 2 小テスト	21	Unit10 Reading Part			
7	Unit 3 Reading Part	22	Unit11 Listening Part、Unit10 小テスト			
8	Unit 4 Listening Part、Unit 3 小テスト	23	Unit11 Reading Part			
9	Unit 4 Reading Part	24	Unit12 Listening Part、Unit11 小テスト			
10	Unit 5 Listening Part、Unit 4 小テスト	25	Unit12 Reading Part			
11	Unit 5 Reading Part	26	Unit13 Listening、Unit12 小テスト			
12	Unit 6 Listening Part、Unit 5 小テスト	27	Unit13 Reading Part			
13	Unit 6 Reading Part	28	Unit14 Listening Part、Unit13 小テスト			
14	Unit 7 Listening Part、Unit 6 小テスト	29	Unit14 Reading Part			
15	Unit 7 Reading Part	30	総括			
予習内容 復習内容	予習：READING PART Find Out の長文について事前学習を行う。 復習：本文の内容と、単語・表現、構文、文法について事後学習を行う。					
教科書	『AMBITIOUS Elementary』（金星堂）					
成績評価	・試験：60%、小テスト：30%、平常点（授業に対する取り組み）：10%の基準で評価する。 ・出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は、出席不足により成績評価要件を満たしていないと判断し、評価対象外とする。					
実務経験						
その他 特記事項	授業欠席事由が公欠、あるいはそれに相当する場合は小テスト未受験について配慮します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	吉岡 みのり	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>環境問題への取り組みや高齢化社会の問題、映画やファッション、メディアやYouTube など、現代社会の様々な話題を各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業（1回目はテキスト読解中心、2回目は語彙やリスニングなどの練習問題）で読了する予定。1ユニット300語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには内容理解度を問う問題や、簡単な英作文、語彙や文法に関する問題、リスニング問題などが用意されている。様々な課題への取り組みを通して、英語力を総合的に向上させることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①英文の内容を速く的確に把握する力をつける。 ②語彙や文法に関する基礎的な知識を確認する。 ③簡単な英文を作成する力や聞き取る力を養う。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）		16	前期試験返却・Unit 7 The Gossip Media(副詞)		
2	Unit 1 Millennials－ミレニアル世代		17	Unit 8 Replanting the World' s Forest－森林再生		
3	Unit 1 Millennials（現在完了形）		18	Unit 8 Replanting the World' s Forest（形容詞・副詞）		
4	Unit 2 Green Profits－環境問題への取り組み		19	Unit 9 Adventure Tourism－旅行		
5	Unit 2 Green Profits（副詞節）		20	Unit 9 Adventure Tourism（前置詞）		
6	Unit 3 Well-Loved Pets－ペット		21	Unit 10 The Cannes Film Festival－映画祭		
7	Unit 3 Well-Loved Pets（形容詞＋前置詞）		22	Unit 10 The Cannes Film Festival（代名詞）		
8	Unit 4 Italy' s Fashion Kings－ファッション		23	Unit 11 Giving Away Billions－寄付		
9	Unit 4 Italy' s Fashion Kings（副詞）		24	Unit 11 Giving Away Billions（形容詞節）		
10	Unit 5 Viral Marketing－マーケティング		25	Unit 12 Computer Actors－CGI		
11	Unit 5 Viral Marketing（前置詞）		26	Unit 12 Computer Actors（受動態）		
12	Unit 6 TED Talk－TED トーク		27	Unit 13 New York City－ニューヨーク市		
13	Unit 6 TED Talk（助動詞）		28	Unit 13 New York City（数量詞）		
14	Unit 7 The Gossip Media－ゴシップとメディア		29	Unit 14 Fresh Water－水をめぐる危機		
15	前期のまとめと試験		30	後期のまとめと試験		
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『リーディング・パス 2』（南雲堂）					
成績評価	<p>試験（前期と後期に実施）50%＋平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30% 小テスト20%(各ユニットを学習した後実施する) 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語 I	花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。					
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようにすることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイドダンス・声調	16	前期の復習			
2	単母音と複母音	17	年齢の言い方とたずね方・量詞			
3	子音・鼻韻母	18	数をたずねる疑問詞			
4	軽声・声調の変化	19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方			
5	アール化・人称代名詞	20	中国の通貨・値段のたずね方			
6	「是」述語文①	21	年月日と曜日・時刻の表現			
7	「是」述語文②・名前の言い方答え方	22	助動詞「想」・連動文			
8	動詞述語文	23	存在文			
9	疑問詞疑問文	24	前置詞①・反復疑問文			
10	副詞「也」・省略疑問文	25	完了形			
11	指示詞・助詞「的」	26	文末につける「了」・前置詞②			
12	副詞「都」・語気助詞	27	助動詞②・助動詞③			
13	数字・所有を表す「有」・程度副詞	28	二重目的語をとる動詞			
14	形容詞述語文	29	進行形・動詞『～が好きだ』			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）					
成績評価	出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
ドイツ語 I	嶋田 宏司	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	ドイツ語というゲルマン語から見た、ヨーロッパの言語の概観をえることを目的とします。 これまでの英語の学習を土台にして、新しい言語の学びかたを身につけることを最終目標とします。 参加型の授業のため、年間10回を超えて欠席した場合は評価の対象外とします。					
到達目標	1. ドイツ語の文が音声を伴って発音できること。 2. 基礎文法を踏まえて、簡単な作文ができること。 3. 1と2を合わせることで会話の糸口を作ることができること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ドイツ語と英語の関係について。ドイツ語の文字を発音してみる。	16	Fahrkarte bitte! 形容詞と格変化 (1)			
2	Ich reise nach Deutschland. 人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)	17	形容詞と格変化 (2)			
3	動詞の現在人称変化 (2)、文型	18	An der Rezeption 動詞の時制について (三基本形 1)			
4	Wie lange bleiben Sie in Deutschland? 名詞の性、冠詞と格変化 (1)	19	動詞の時制について (三基本形 2)			
5	冠詞と格変化 (2)、不定冠詞	20	過去、過去分詞 (1)			
6	Willkommen in München! 不規則動詞 (1)	21	Konzertabend 分離動詞 (1)			
7	不規則動詞 (2)	22	分離動詞 (2)、非分離動詞			
8	定冠詞類 (1)	23	zu不定詞			
9	定冠詞類 (2)	24	Im Kaffeehaus 話法の助動詞 (1)			
10	不定冠詞類 (1)	25	話法の助動詞 (2)			
11	不定冠詞類 (2)	26	再帰動詞、再帰代名詞 (1)			
12	In München gibt es viele Sehenswürdigkeiten. 前置詞	27	再帰動詞、再帰代名詞 (2)			
13	前置詞	28	Einchecken bitte! 未来形			
14	Was wünschen Sie? 人称代名詞、目的語の語順	29	完了形			
15	試験	30	試験			
予習内容 復習内容	予習: Googleなどの音声認識アプリで教科書の本文を読み、発音を確認しておくこと。 復習: 教科書の練習を再び解いてみて、一つの文として書き写すこと。そして発音しておくこと。					
教科書	『Deutsch, der erste Schritt ドイツ語、始めてみよう』伊藤眞／高橋幸雄／木村高明、同学社					
成績評価	前期末、後期末の2回の試験 (70%)、出席状況、課題への取り組み、積極的な発言や明瞭な発声など (30%)					
実務経験						
その他 特記事項	5月以降は辞書を持参すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I	今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。</p> <p>教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。</p>					
到達目標	<p>①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験5級程度）を音読できる。</p> <p>②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験5級程度）を理解し、自分でも作ることができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、アルファベット	16	前期の復習			
2	アルファベットと単語の読み方	17	第4課 定冠詞の仲間			
3	単語の読み方（挨拶、数字など）	18	第4課 練習問題			
4	第1課 文の作り方（動詞について）	19	第4課 不定冠詞の仲間			
5	第1課 重要な動詞、語順の原則	20	第4課 練習問題、会話文			
6	第1課 練習問題、会話文	21	第5課 名詞の複数形			
7	第2課 名詞について（名詞の性別）	22	第5課 人称代名詞			
8	第2課 名詞の「格」について	23	第5課 練習問題、会話文			
9	第2課 重要な動詞	24	復習と中間テスト			
10	第2課 練習問題、会話文	25	第6課 前置詞の使い方			
11	復習と中間テスト	26	第6課 練習問題、会話文			
12	第3課 不規則動詞	27	第7課 形容詞の使い方			
13	第3課 不規則動詞の練習問題、命令形	28	第7課 練習問題、会話文			
14	第3課 練習問題、会話文	29	後期の復習			
15	前期の復習	30	前期・後期の復習			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。</p> <p>復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。</p>					
教科書	<p>①『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社</p> <p>②独和辞典（4月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※5月以降は必ず①②両方持参すること</p>					
成績評価	<p>前期試験と後期試験の点数に基づいて成績評価を行う。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも10回以上講義に出席しないと評価対象外となる（遅刻・早退は0.5回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけでなく、自分でやってみなくては身につけません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語 I	井出 勉	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語の発音にまず慣れてもらうよう十分に練習します。フランス語は思ったより日本語の中に取り入れられていることがわかり身近に感じられるはずですが。実際のコミュニケーションにも対応できる会話文を通して、フランスの文化も紹介します。 また、旅行でも役に立つ日常会話を習得することで、特に仏検 5 級の聞き取り問題にも対応できるようになってもらうことを目的とする。					
到達目標	①仏検 5 級合格レベルの初級文法や、簡単な日常的コミュニケーションを取れるようになること。 ②フランス語を学ぶことを通して、アメリカ文化とは違った、ヨーロッパの異文化を分析・解釈できるようになること。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	授業の進め方、フランスの紹介・発音		16	数字（特に 1～20）と年齢		
2	綴り字の読み方・出合ったときの挨拶		17	部分冠詞		
3	発音練習・別れの挨拶		18	飲み物：カフェでの注文・精算の仕方		
4	自己紹介の仕方		19	食べ物：レストランでの注文・精算の仕方 * 仏検 5 級受講希望者がいる場合：仏検対策①		
5	名詞の性と数・不定冠詞		20	～に行く・～から来た 仏検対策②		
6	形容詞の性と数		21	所有形容詞・人称代名詞強勢形		
7	特殊な変化の形容詞・定冠詞		22	比較級		
8	基本動詞の活用		23	命令形		
9	3通りの疑問文の作り方		24	曜日と日付の表記の仕方		
10	指示代名詞・～が好き（大好き）		25	天候・時刻		
11	否定文		26	近接未来・近接過去		
12	動詞～を持つとその慣用表現		27	過去分詞の作り方		
13	疑問形容詞		28	複合過去（助動詞 avoir）		
14	動詞～をするとその慣用表現		29	複合過去（助動詞 être）		
15	前期の総括		30	後期の総括		
予習内容 復習内容	予習：配布した講義資料に基づき、教科書付属の CD を聞いたりしておくこと。 復習：前回の講義ノートなどに目を通し、疑問点などを明らかにしておくこと。 CD も繰り返し聞き、自宅でも発音練習を各自でやっておくこと。					
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社					
成績評価	平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、試験（中間・期末）70% 年間 10 回を超える欠席をした場合、評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	辞書・参考文献については、第 1 回の講義や講義中に随時紹介する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食物栄養学入門	食物栄養学科教員	講義	2		1	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	初学者を対象として、栄養士のさまざまな仕事内容について紹介を行う。また、栄養士免許取得に必要な講義科目や実験実習科目について、学び方や基礎知識について、各教員からオムニバス方式で学ぶ。また、研究倫理に関する内容も教育する。授業目的は、それら学習した知識を各教科の学びに活用できるようになることとする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養士免許必修のカリキュラム構成および各科目の学び方について理解することができる。 ・ 栄養士免許科目の基礎的な知識を習得することができる。 ・ 多様な栄養士業務について理解することができる。 					
回	学習内容					
1	情報処理演習室の利用説明 / 図書館の利用説明					
2	研究倫理について					
3	栄養士・管理栄養士について					
4	栄養士の職場と仕事内容					
5	栄養学・応用栄養学の学び方					
6	解剖生理学・運動保健学の学び方					
7	生化学の学び方					
8	食品学・食品衛生学の学び方					
9	食品加工学の学び方					
10	栄養教育論・栄養指導論の学び方					
11	公衆栄養学の学び方					
12	調理学・給食運営管理論の学び方					
13	臨床栄養学の学び方					
14	味覚について					
15	食物栄養学入門のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：教科書等を読んで各科目の特徴について理解する。 復習：当日の講義内容について配布物や教科書等を活用して復習する。					
教科書	特になし。授業で使用する資料はこちらから配付する。					
成績評価	授業に取り組む態度、課題レポートの内容などを各担当教員が評価し、その合計点を 100 点（100%）に換算して評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話	ジョン・リチャーズ	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course.					
到達目標	My goal is to encourage students to improve their communication skills and to gain the confidence necessary to obtain an intermediate level of communication in English.					
回	学習内容	回	学習内容			
1	Introduction and Orientation	16	Unit 7 Then and now			
2	Assessment of Students' Abilities	17	Unit 7 Then and now			
3	Unit 1 Hello Everybody	18	Unit 8 A date to remember			
4	Unit 1 Hello Everybody	19	Unit 8 A date to remember			
5	Unit 2 Meeting people	20	Unit 9 Food you like!			
6	Unit 2 Meeting people	21	Unit 9 Food you like!			
7	Unit 3 The world of work	22	Unit 10 Looking Good!			
8	Unit 3 The world of work	23	Unit 10 Looking Good!			
9	Unit 4 Take it easy!	24	Unit 11 Life is an Adventure			
10	Unit 4 Take it easy!	25	Unit 11 Life is an Adventure			
11	Unit 5 Where do you live?	26	Unit 12 Have you ever?			
12	Unit 5 Where do you live?	27	Unit 12 Have you ever?			
13	Unit 6 Can you speak English?	28	This day is reserved for unfinished work in the textbook.			
14	Unit 6 Can you speak English?	29	This day is reserved for unfinished work in the textbook.			
15	End of First Semester Test	30	End of Second Semester Test			
予習内容 復習内容	Students comprehension will be assessed through weekly activities and homework.					
教科書	American Headway 1 (3rd edition. ISBN 978-0-19-472565-1) By Riz and John Soars (Oxford University Press)					
成績評価	Homework -50% Mid Term Exam - 20% Final Exam - 30%					
実務経験						
その他 特記事項	It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読	村井 美代子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>科学技術や教育、文化、環境問題など現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>1ユニット 400～500 語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①400～500 語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。</p> <p>②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）		16	前期試験返却 Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害		
2	Unit 1：pandemic の語源をたどる		17	Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害		
3	Unit 1：pandemic の語源をたどる		18	Unit 9：持続可能な都市づくりのために		
4	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		19	Unit 9：持続可能な都市づくりのために		
5	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		20	Unit 10：ブルーカーボンとは？		
6	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		21	Unit 10：ブルーカーボンとは？		
7	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		22	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響		
8	Unit 4：指紋認識精度を高める		23	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響		
9	Unit 4：指紋認識精度を高める		24	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション		
10	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		25	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション		
11	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		26	Unit 13：色の認識について		
12	Unit 6：ルービックキューブの歴史		27	Unit 13：色の認識について		
13	Unit 6：ルービックキューブの歴史		28	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性		
14	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		29	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性		
15	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		30	Unit 15：情報のオーバーロードへの対策		
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。</p> <p>提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『リーディングプロスペクト 英文読解の総合演習』（三修社）					
成績評価	試験（前期と後期に実施）70% + 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30% 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
実用英語	伊藤 怜	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	TOEIC 受験を意識しつつ、TOEIC 形式の（あるいは、それに類似した）リスニング問題やリーディング問題を解いていきます。その際、正解を導き出すために必要となる語彙や文法事項を基礎から学び、それらを正しく理解することで英語運用能力の向上を目指します。TOEIC の問題に準拠した、テーマ別 20 ユニットの実践的な練習問題を積み重ねることにより、英語の基礎力向上と TOEIC の得点アップにつなげます。ユニット毎に確認小テストを課します。					
到達目標	実践力を身につけ、TOEIC L&R テストで 400 点以上をとることができる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	授業の説明・TOEIC 出題形式の概観		16	前期の復習・前期期末試験の解説		
2	Unit 1: Shopping		17	Unit 11: Office Equipment		
3	Unit 2: Health		18	Unit 12: Entertainment		
4	Unit 3: Travel		19	Unit 13: Personnel Affairs & Job Hunting		
5	ここまでの復習		20	ここまでの復習		
6	Unit 4: Weather		21	Unit 14: Contracts		
7	Unit 5: Communication		22	Unit 15: Shipment & Delivery		
8	Unit 6: Home & Family		23	Unit 16: Meetings		
9	ここまでの復習		24	ここまでの復習		
10	Unit 7: Requests & Negotiation		25	Unit 17: Environment & Energy		
11	Unit 8: Transportation		26	Unit 18: Hotels & Restaurants		
12	ここまでの復習		27	ここまでの復習		
13	Unit 9: Production & Control		28	Unit 19: PR & Advertising		
14	Unit 10: Economy & Management		29	Unit 20: Events & Parties		
15	ここまでの復習		30	ここまでの復習		
予習内容 復習内容	予習：各ユニット Step 1 の単語を確認し、「英語の仕組み」を読み、並び替え問題をやっておく。 復習：授業後に問題をすべて解き直し、次回授業冒頭でおこなう確認小テストの準備をしておく。					
教科書	STEP-BY-STEP PREP FOR THE TOEIC L&R TEST Basic Course TOEIC L&R TEST ステップ式徹底演習〈初級〉編（アルク）					
成績評価	「前期・後期期末試験」50%（50 点*2 回：計 100 点）＋「小テスト」50%（5 点*20 回：計 100 点） 出席状況や授業態度は各成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料とする。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席 5 回」を超えた場合、評価の対象外とする。 ・ 小テストがある授業回に遅刻・欠席した場合、小テストの受験は認めない。 ・ 授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語Ⅱ	花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	中国語Ⅰで学習した文法事項を確認しながら、より多彩な中国語の表現を学びます。教科書は初中級レベルのものを使用し、無理なくじっくり進めていきます。 リスニング、簡単な会話・音読や自由作文など、中国語を実際に使うトレーニングを行います。 また、中国語の背景にある文化や社会についても、引き続き学びます。					
到達目標	語彙や表現を増やし、中国語を使用した日常的な会話、作文ができるようになることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス・一年次の復習	16	前期の復習・『～と思う』・『～だそうだ』			
2	比較文・『～以外に』・動詞を使った名詞句	17	本文講読・第5課トレーニング			
3	結果補語・会話練習	18	『もうすぐ～だ』・『過ごす』・動詞「祝」			
4	本文講読・第1課トレーニング	19	前置詞「為了」・会話練習			
5	『～のとき』・方向補語「起来」	20	本文講読・第6課トレーニング			
6	副詞「才」・動詞「知道」	21	『たとえ～でも』・『～もあれば～もある』			
7	本文講読・第2課トレーニング	22	「一定要～」・会話練習			
8	『～したばかり』・「把」構文	23	本文講読・第7課トレーニング			
9	「因為」・「原来」・会話練習	24	『～しながら…する』・副詞「只好」・可能補語			
10	本文講読・第3課トレーニング	25	動詞「希望」・会話練習			
11	前置詞「对」・二つの「要」	26	本文講読・第8課トレーニング			
12	『なぜ』・『～だけれども…だ』・会話練習	27	『～だけではなく、また…』・持続			
13	本文講読・第4課トレーニング	28	『少しも～ない』・会話練習			
14	『～とは思わなかった』・蓋然性の助動詞「会」	29	本文講読・第9課トレーニング			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	鄭高咏著『音読&会話で深める中国語 中級アイテム15』（朝日出版社） この他、授業内で補助資料の配布があります。					
成績評価	平常点 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。 ※「中国語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行いますので、中国語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語Ⅱ	今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済み、または「ドイツ語Ⅰ」と同時に履修する方のための科目です。 「ドイツ語Ⅰ」で学ぶ文法事項をベースにして、聴き取り、発音、会話、読解などの練習を行い、簡単なドイツ語（ドイツ語検定試験5～4級程度）を使って口頭でのコミュニケーションができるようになることを目指します。</p>					
到達目標	<p>①初歩的なドイツ語（検定試験5～4級程度）を聴いて理解することができる。 ②初歩的なドイツ語を自ら使用することができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、発音の復習	16	第5課 住まい、値段の表現、数字			
2	発音の復習、挨拶	17	第5課 聴き取り、会話練習			
3	第1課 挨拶、自己紹介の表現	18	第5課 読解、文法の確認			
4	第1課 聴き取り、会話練習	19	第6課 家族について話す			
5	第1課 読解、文法の確認	20	第6課 聴き取り、会話練習			
6	第2課 職業をたずねる／答える表現、数字	21	第6課 読解、文法の確認			
7	第2課 聴き取り、会話練習	22	第7課 趣味について話す			
8	第2課 読解、文法の確認	23	第7課 聴き取り、会話練習			
9	第3課 友人を紹介する表現	24	第7課 読解、文法の確認			
10	第3課 聴き取り、会話練習	25	第8課 プレゼントをする／探す、数字			
11	第3課 読解、文法の確認	26	第8課 聴き取り、会話練習			
12	第4課 レストランでの会話表現	27	第8課 読解、文法の確認			
13	第4課 聴き取り、会話練習	28	第9課 予定、規則、願望などについて話す			
14	第4課 読解、文法の確認	29	第9課 聴き取り、会話練習			
15	前期の復習	30	第9課 読解、文法の確認			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習する「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、教科書の音声を聴き、音読する。 復習：学んだ表現の音読練習をする。参考書や「ドイツ語Ⅰ」の教科書などで文法の復習をする。</p>					
教科書	<p>①『Spitze! 1』（シュピッツェ! 1）朝日出版社 ②独和辞典（「ドイツ語Ⅰ」と同じものでよい）</p>					
成績評価	<p>前期課題40%、後期課題60%程度の割合で成績評価を行う。講義内で行う小テスト等は参考程度（マイナス評価の材料にはしない）。成績評価を受けるには、前後期とも10回以上の出席が必要（遅刻・早退は0.5回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語Ⅱ	青木 幸美	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語をはじめて学ぶ人のために作られた教科書を用います。したがって、初心者も受講可能です。教科書の表題『C' est bon! セ・ボン!』は「おいしい!」という意味で、各課の話題のテーマは「食」と、比較文化です。最小限の文法事項を理解し、最大限の実践を試みて、フランス語を味わい、文化について考えることが目的です。					
到達目標	フランス語日常会話の基本的表現を使うことができ、自然なリズムで会話をすることができるようになる。フランス語のレシピを読んで実際に試作し、和食のレシピをフランス語で書いて説明できるようになる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	Leçon 0: Bonjour! 挨拶・授業の進め方	16	Leçon 6: Vous avez pris ~? ~を注文しましたか? 複合過去			
2	Leçon 0: un, deux, trois 数字	17	Leçon 6: レストランのフランス語			
3	Leçon 1: ~, s' il vous plaît. ~をください。	18	Leçon 7: Il faut ~. ~が必要です。			
4	Leçon 1: ~, s' il vous plaît. 名詞表現	19	Leçon 7: 「faire する」「pouvoir できる」			
5	Leçon 2: Qu' est-ce que c' est ? 何ですか?	20	Leçon 8: もっと濃いコーヒーが欲しい。			
6	Leçon 2: C' est ~. ~です。	21	Leçon 8: 比較級、最上級			
7	Leçon 2: Je suis cuisinier. 私は料理人です。	22	Leçon 9: おすすめは何ですか?			
8	Leçon 3: Vous aimez ~? ~は好きですか?	23	Leçon 9: 好みの表現			
9	Leçon 3: Je n' aime pas le poisson. 魚は好きではありません。	24	Leçon 10: Écoute bien ! ちゃんと聞いて!			
10	Leçon 3: 料理名のフランス語	25	Leçon 10: C' est sympa ! いい!			
11	Leçon 4: Vous avez une réservation ? 予約していますか?	26	Leçon 11: どれくらいかかりますか?			
12	Leçon 4: Vous avez ~ ? ~はありますか?	27	Leçon 11: キッチンのフランス語			
13	Leçon 5: Je vais prendre ~. ~をください。	28	Leçon 12: Je me lève tôt. 私は早く起きます。			
14	Leçon 5: Je n' ai pas très faim. あまりおなかがすいていません。	29	Leçon 12: フランス語のルセット(レシピ)を読む。和訳する。			
15	Leçon 5: 近接未来、近接過去	30	Leçon 12: 和食のレシピを仏訳する。			
予習内容 復習内容	毎回、学習した語彙や基本文の発音、聞き取りを繰り返し復習すること。授業のはじめに基本文の聞き取りをおこなうので、その準備として既習の基本文を確認し、練習しておくこと。					
教科書	黒木秀房、畠山香奈、加藤三和、Sonia Silva 『C' est bon! セ・ボン!』駿河台出版社					
成績評価	授業中におこなう聞き取り 60%、ルセットの和訳とレシピの仏訳の筆記 40%。					
実務経験						
その他 特記事項	フランス語検定受験のためには別途練習問題に取り組む必要がある。希望者は申し出てください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	盛田 健人	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。					
到達目標	目的に合わせて Word・Excel を正しく使い分けて資料を作成できる。					
回	学習内容					
1	導入、コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作					
3	Word の基礎(1) : 文書の見た目の整え方					
4	Word の基礎(2) : 表の使い方					
5	Word の基礎(3) : 図の使い方					
6	Word の基礎(4) : レポートとしての体裁の整え方					
7	演習(1) : Word のまとめ					
8	Excel の基礎(1) : シートの見た目の整え方					
9	Excel の基礎(2) : 数式・関数の使い方					
10	Excel の基礎(3) : グラフの使い方					
11	Excel の基礎(4) : データベースの使い方					
12	演習(2) : Excel のまとめ					
13	Word と Excel の連携					
14	資料を作る際の心構え					
15	演習(3) : 総合演習					
予習内容 復習内容	予習 : 教科書の学習内容の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。 復習 : 演習時間中に終わらなかった課題に取り組み理解を深める。					
教科書	『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office 活用術』 noa 出版、2019					
成績評価	課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。配点の比率は、毎回の課題あわせて 40%、演習はそれぞれ 20% である。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3 回以上となった場合は成績評価を不可とする。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	松下 真也	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などではコンピュータを用いた資料・書類作成が頻繁に行われている。この実習では、資料・書類作成で頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) および office ソフト (Word, Excel) を対象とした各課題をこなし、コンピュータの基本操作の習得をめざす。また、PowerPoint を題材にして図表・グラフの正確さや見やすさを学習し、「わかりやすい資料」への意識を養う。					
到達目標	1 コンピュータの基本操作を身につける。 2 office ソフトを用いて資料・書類作成ができる。					
回	学習内容					
1	導入、コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作、プレゼンテーションの基本 (PowerPoint)					
3	Word の基礎 1 基本操作の確認					
4	Word の基礎 2 表の作成					
5	Word の基礎 3 図形の挿入・編集					
6	Word の基礎 4 スタイルの適用 PowerPoint の基礎 プレゼン資料作成時の心構え					
7	演習 Word のまとめ					
8	Excel の基礎 1 基本操作の確認とグラフ作成、誤解を招きやすい図表・グラフ (PowerPoint)					
9	Excel の基礎 2 関数の設定					
10	Excel の基礎 3 データベースの活用①					
11	Excel の基礎 4 データベースの活用②					
12	演習 Excel のまとめ					
13	Word と Excel の活用					
14	資料・書類作成時の心構え					
15	最終課題 Word, Excel のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：事前に教科書を読み、不明な用語・操作方法は調べておくこと。 復習：課題提出後、教科書の練習問題や発展問題に取り組むこと。					
教科書	「リファレンス動画付き！実戦ドリルで学ぶ office 活用術 演習問題全 173 題」 Noa 出版, 2019/2/22, 商品コード 1522					
成績評価	成績は、課題・演習・最終課題の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が 3 回以上の場合は成績を不可とする。 配点：課題 30%、演習 30%、最終課題 40%					
実務経験						
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本などを読むだけでは習得が困難である。したがって、この授業では実習に参加して、課題をこなすことに評価の主眼がある。受講の際には、この点に留意すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	眞田 耕輔	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel, PowerPoint) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作および情報リテラシーに対する習得することをめざす。					
到達目標	情報リテラシーおよびコンピュータ基本操作を理解したうえで、Word、Excel、PowerPoint の基本ソフトウェアを使用して、資料作成およびプレゼンテーションができること。					
回	学習内容					
1	導入、コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作,					
3	Word の基礎(1): 基本操作					
4	Word の基礎(2): 表の作成					
5	Word の基礎(3): 図の挿入					
6	Word の基礎(4): Word を用いたレポート作成					
7	演習 Word のまとめ					
8	Excel の基礎(1): 基本操作					
9	Excel の基礎(2): 関数の使い方					
10	Excel の基礎(3): 図の作成					
11	Excel の基礎(4): データベース					
12	演習 Excel のまとめ					
13	Excel 演習の復習, Power Point 実習(プレゼンテーションスライド作成)					
14	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (1): 発表 1 日程					
15	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (2): 発表 2 日程					
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。 毎回の演習課題を取り組みながら講義内容の復習をすること。					
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2019 対応』 noa 出版、2019 ISBN978-4908434341					
成績評価	成績は、課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・プレゼンテーション実習) の結果を総合して判定する。なお、最終回の講義の時点で課題の未提出が 3 個以上の場合は成績を不可とする。配点は、word、Excel、プレゼンテーションの 3 回の演習 (各回 30%程度) の合計点で評価する。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	第 14 回、第 15 回ではプレゼンテーション演習を行う。第 13 回で発表用スライドを Power Point で作成し、第 14 回、第 15 回では 2 週にわたって発表演習と受講者間での発表評価採点を行う。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	高瀬 治彦	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。					
到達目標	Microsoft のオフィスソフトを用いて、レポート・プレゼンテーション資料等を、作成できるようになる。					
回	学習内容					
1	導入, コンピュータリテラシー					
2	コンピュータの基本操作					
3	Word の基礎(1)					
4	Word の基礎(2)					
5	Word の基礎(3)					
6	Word の基礎(4)					
7	演習 Word のまとめ					
8	Excel の基礎(1)					
9	Excel の基礎(2)					
10	Excel の基礎(3)					
11	Excel の基礎(4)					
12	演習 Excel のまとめ					
13	Word と Excel の連携					
14	資料を作る際の心構え					
15	総合演習					
予習内容 復習内容	予習：教科書の関連範囲を事前に読んでおくこと。 復習：実習で取り上げなかった教科書の演習課題に取り組むこと。					
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術』 noa 出版, 2019 ISBN978-4-908434-34-1					
成績評価	成績は、各回の課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。それぞれ、指示の達成状況 (正確さ) ・提出までの時間 (速さ) を主に評価する。配点の比率は、課題あわせて 40 点程度、演習はそれぞれ 20 点程度である。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習Ⅱ	笠 浩一朗	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、情報をもとに問題解決に取り組む能力が社会で求められている。本講義では、問題解決能力を高めるために必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義の前半では、Excel を用いて、データ分析やデータの可視化（表やグラフの作成）を行う。講義の後半では、RESAS（地域経済分析システム）を利用して、情報の収集、分析について学ぶ。					
到達目標	問題解決能力で必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作					
2	Excel の基本操作（データの入力、表の作成、基本的な関数）					
3	Excel の応用 1（統計的な関数、プルダウンメニュー）					
4	Excel の応用 2（情報の可視化、グラフの作成方法）					
5	Excel の応用 3（相関分析、CORREL 関数、オープンデータ）					
6	Excel の応用 4（データによる予測、e-Stat）					
7	Excel の応用 5（データベース、クロス集計、ピボットテーブル）					
8	中間課題					
9	RESAS の基本操作 1（RESAS を用いたデータ収集）					
10	RESAS の基本操作 2（RESAS を用いたデータ分析）					
11	最終課題の作成 1（最終課題の内容説明、分析の模式図の作成）					
12	最終課題の作成 2（分析の模式図の修正と発表資料の作成）					
13	最終課題の作成 3（発表資料の作成）					
14	最終課題の発表					
15	最終課題の発表と本講義のまとめ					
予習内容 復習内容	授業前に情報処理実習Ⅰの復習などをして予習しておくこと。 毎回の小課題は授業内だけでは終わらないので、授業外でも課題に取り組むこと。					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	小課題（30%）、中間課題（20%）、最終課題（50%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	パソコン操作に不慣れな人は、予習と復習を積極的に取り組むこと。 情報処理実習Ⅰを履修済みであることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報と社会	笠 浩一郎	講義	2		4	4
授業概要 授業目的	講義は、以下の三つの内容で構成されている。一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ICT の発達により誰もが簡単に情報を取得・発信できる社会になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷などの新たな問題が発生している。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすための方法を解説する。二つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。三つ目は、人工知能（AI）に関することである。近年、AI を活用したシステムを身近に利用できる状況にあり、そのシステムの仕組みを紹介する。					
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、情報科学の進歩により社会で起きている変化					
2	インターネットの仕組みと利用におけるマナー					
3	個人情報とプライバシー、社会で活用されているデータ					
4	電子商取引					
5	知的財産権・メディアリテラシ					
6	ネットワーク不法行為、データを扱う上での留意事項					
7	情報技術とセキュリティ、データを守る上での留意事項					
8	システム開発とマネジメント					
9	システム構成と故障対策、業務改善と分析手法					
10	AI の歴史と現在システム開発とマネジメント					
11	AI 利活用の最新動向システム構成と故障対策					
12	AI 活用領域について					
13	AI 利活用のための技術					
14	AI 利活用の現場					
15	情報倫理と情報リテラシ					
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくることに。 前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。					
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。					
成績評価	毎回の小テスト（100%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
プログラミング基礎	眞田 耕輔	講義	2		4	3
授業概要 授業目的	現在、情報分野に携わる人材だけでなく、あらゆる分野を専門とする人にとって、プログラミングの技能を身につけることは必要になってきている。本講義では、Python を用いて、変数、関数、制御文（条件分岐、繰り返し）など、プログラミングの基本的な概念、記述方法を解説するとともに、プログラミングの演習を行い、実践的にも学びます。Python の基礎を修得することを本講義の目的とする。					
到達目標	基本的な問題が与えられたときに、それを解くアルゴリズムを考え、実際にプログラミングできることを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	プログラミングとは、変数とデータ型					
2	コレクション					
3	条件分岐					
4	繰り返し					
5	関数					
6	オブジェクト					
7	モジュール					
8	中間テスト					
9	機械学習とは					
10	機械学習によるデータ分析					
11	機械学習を用いた分類					
12	機械学習を用いた回帰					
13	期末課題のテーマ決め					
14	期末課題の分析の実施					
15	期末課題の分析結果の報告					
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。 授業で紹介した内容を、実際にプログラミングして復習すること。					
教科書	スッキリわかる Python 入門、インプレス、（ISBN:9784295006329）					
成績評価	中間テスト（40%）、期末課題（60%）					
実務経験						
その他 特記事項	予習、復習のために Windows または Mac の PC を所有していることが望ましい。 統計学についての基礎知識を取得済みであることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義	木野村 嘉則	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>これまで、体育を通じて、健康や運動の重要性について学んできました。また、人々の健康志向も高まり、健康や運動に関する情報に溢れています。本科目では、運動によって人間のからだに意図的に働きかけ、構造的あるいは機能的な変化を目指すトレーニングについて扱います(この際、スポーツのトレーニング方法を参考に考えます)。適切な情報をもとに健康づくりや身体づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てることを目指します。特に、生理学的、運動学的な基礎的な知識について理解することを目指します。</p>					
到達目標	<p>トレーニングに関係する生理学的な知識を身につける。 体力的なトレーニングについての原則や方法を説明できる。 健康づくりや体力づくりを目指した運動プログラムについて考えることができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、トレーニング科学の概論 (体力とは何か)					
2	筋肉の構造と収縮の仕組み					
3	骨格の構造と関節の運動					
4	筋力を高めるトレーニング方法					
5	筋力トレーニングに係わる筋の特徴					
6	スピードを高める筋力トレーニングについて					
7	運動に必要となる身体のエネルギー					
8	無酸素性トレーニングと有酸素性トレーニング					
9	持久力を高めるインターバルトレーニング					
10	トレーニングの原則					
11	体格や体力の発達					
12	トレーニング時の障害予防、加齢に伴う体力の変化					
13	体力や体格の性差、運動処方					
14	トレーニングの目標設定					
15	トレーニングの計画					
予習内容 復習内容	<p>予習：次回講義に向けた課題に関連した情報について検索し目を通すなど。 復習：講義資料とノートの整理などを通じて基礎的な用語を理解する。</p>					
教科書	テキストは使用しない。資料を毎回配布する。					
成績評価	授業時に取り組む課題にて評価します (100%)					
実務経験						
その他 特記事項	<p>運動は健康に重要な役割を果たします。生活の中に運動を取り入れることを意識していくことが重要です。この講義が生涯にわたって運動を楽しんでいくきっかけになってくれたらと思います。みなさんがお互いのこれまでの経験をシェアしながら、講義で扱う知識を具体的にイメージできるようになってほしいです。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技	石川 拓次	講義	1		2	3
授業概要 授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。					
到達目標	1 健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。（知識・理解） 2 それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。（思考・判断） 3 生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。（思考・判断）					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・体力測定					
2	バドミントン (1) 基本的なストローク					
3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦 1					
4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦 2					
5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)					
6	バスケットボール (2) 総当たり戦 1					
7	バスケットボール (3) 総当たり戦 2					
8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール					
9	バレーボール (2) 総当たり戦 1					
10	バレーボール (3) 総当たり戦 2					
11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス					
12	卓球 (2) 総当たり戦 1					
13	ニュースポーツ (1) インディアカ					
14	ニュースポーツ (2) インディアカ					
15	体力測定					
予習内容 復習内容	授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。（毎回 90 分程度）					
教科書	指定しない					
成績評価	定期試験（筆記）は行わない。 授業への積極的態 度 30% 体力測定 40% レポート 30% 評価基準：体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生命科学	狩野 幹人	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>生命科学 (Life Science) は、21 世紀の科学技術を担う重点分野の 1 つである。2003 年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。</p> <p>本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。</p>					
到達目標	<p>①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。</p> <p>②生物学、生命科学の成り立ちについて、物理学や化学の知識も使いながら、歴史的に捉えられる。</p> <p>③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンス (科学とは? 自然科学とは? 生命科学とは? を中心に)					
2	細胞の構造					
3	細胞の形質、機能					
4	細胞の活動					
5	タンパク質の役割					
6	多細胞生物への展開 (1) - 細胞間の情報交換					
7	多細胞生物への展開 (2) - 体細胞分裂と DNA の複製					
8	免疫システム (1) - 生体防御機構の概要					
9	免疫システム (2) - T 細胞と細胞性免疫					
10	免疫システム (3) - B 細胞と体液性免疫					
11	細胞の再生と死					
12	環境の認識、調節					
13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは					
14	生命科学と知的財産 (1) - 知的財産とは					
15	生命科学と知的財産 (2) - 生命科学の発展と知的財産の役割					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。</p> <p>復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。</p>					
教科書	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第 4 版)、和田勝、羊土社 (2020)」を教科書として用いる。また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。					
成績評価	<p>①毎回出席をとる (講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう)。出席率が 3 分の 2 以上の者を成績評価の対象とする。</p> <p>②その上で、レポート (2 回を予定) により成績を評価する。</p>					
実務経験	2022 年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト (文部科学省)」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。					
その他 特記事項	単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自然と科学	松井 博和	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	自然と科学について、いわゆる理系の人でも理解していない現象も、簡単な説明や実験で理解してもらおう。講義の間に、毎回の授業において、主として計算問題を解き、レポートとして提出してもらおう。これにより、主体的に現象理解に取り組めるようにする。私自身が体験した事象や、ニュースなど世間で注目されるものについて、科学的に説明できるものであれば、適宜授業に取り込む。					
到達目標	身近な生活の中で体験したり、利用する自然現象や科学技術を理解してもらおう。					
回	学習内容					
1	長さ、速さ、時間などの単位と定義について					
2	天体（地球と月と太陽）について					
3	天体（恒星と惑星）について					
4	機械機構（車輪など）について					
5	電気（電力量と生活）について					
6	私の研究紹介・中間試験					
7	光と色について（物理的説明）					
8	光と色について（生体的説明）					
9	音（周波数・音量・デシベル）について					
10	音（音声）について					
11	波動と量子力学について					
12	生命と遺伝について					
13	人工知能について					
14	天体（宇宙と科学）について					
15	自然と科学についてのまとめ・期末試験について					
予習内容 復習内容	予習内容：各学習内容の項目をキーワードにネットなどで簡単に調べてみる。 復習内容：講義内容に対して疑問をまとめる。					
教科書	教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。					
成績評価	毎回提出する授業内レポート計 40(=2 点*15 回+10) 点満点（レポート提出が 7 回以下は成績不可とする）。中間試験 20 点、期末試験は 40 点満点。合計 100 点満点で成績評価する。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	前年度までは実施しなかった中間試験を取り入れ、間違い易い内容理解を確認し復習する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学	高橋 彩	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学とされている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。					
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。					
回	学習内容					
1	心理学とはどのような学問か					
2	知覚（大きさの恒常性、錯視）					
3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）					
4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）					
5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）					
6	感情（感情の機能、ストレス）					
7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）					
8	臨床 精神的健康					
9	知能（知能検査と IQ）					
10	思考（推論、ヒューリスティックス）					
11	対人認知（印象形成、対人魅力）					
12	発達（遺伝と環境）					
13	集団 1（社会的促進と抑制、集団規範、同調）					
14	集団 2（リーダーシップ、態度変容）					
15	心理学の応用					
予習内容	予習：講義中に指示した文献を読む					
復習内容	復習：授業課題で分からなかった部分を調べる					
教科書	二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-42223-6					
成績評価	定期試験 70%と授業内での課題レポート 30%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論	古山 歩	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。					
到達目標	(1) 現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 (2) 環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、生物の分類・生物多様性、生態系とそのサービス					
2	基礎的な生態学					
3	環境問題の概要					
4	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響					
5	地球温暖化Ⅱ：対策と課題					
6	再生可能エネルギーの利点と課題					
7	都市開発					
8	海洋汚染					
9	生物の乱獲・混獲					
10	捕鯨					
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響					
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題					
13	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト					
14	生物の保護・増殖事業					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。					
教科書	なし。講義にて資料を配布する。					
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40% 試験：60% 1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
教育学	伊東 直人	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について理解するとともに、教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みについて学習する。さらに、生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について学ぶ。加えて、実際に就職した際に求められる力量の基礎を身に付けるため、グループディスカッションを行うなど参加型の授業の手法を取り入れ、グループによる課題調査・討論を実施する。</p>					
到達目標	<p>1) 教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について説明することができる。 2) 教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みを説明することができる。 3) 生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について説明することができる。 4) グループ討議・発表において、積極的に議論へ参加することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、教育の意義と本質					
2	教育の必要性と可能性					
3	社会化と学校教育の位置・役割					
4	教育関連法制度、及び教育行政機関の役割と学校との関わりについて					
5	国における教育政策の動向					
6	教育行政の変容					
7	教育委員会制度の見直し					
8	生涯学習体系への移行					
9	学校の経営と学校評価					
10	令和の日本型学校教育					
11	教育の機会均等Ⅰ 義務教育制度を踏まえて					
12	教育の機会均等Ⅱ 不登校・いじめ問題・貧困・ヤングケアラー等子どもをめぐる課題を踏まえて					
13	学校危機管理					
14	学校における ICT 活用					
15	子ども・子育て支援制度と幼児期の教育					
予習内容 復習内容	<p>最新の教育時事や教育情報収集を日常的に行う。また、事前学習として参考資料等を活用し、まとめを2時間、事後学習として授業スライドのまとめを2時間程度行うこと。講義受講用のノートを作成し、テキスト内容をまとめるなどの事前学習、授業後のまとめを行うこと。</p>					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	最終レポート（40%）、小レポート・授業振り返り（40%）、授業の参加意欲・討議への参加度（20%）					
実務経験	18年間の小学校教諭を経て、平成14～21年度指導主事（8年）、平成22～23年度小学校教頭（2年）、平成24～令和元年度小学校長（8年）として勤務					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生涯学習論	長島 洋	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>*生涯学習の基礎知識を学ぶとともに、身近な問題を取りあげ、生涯学習社会の重要性を学びます。</p> <p>*「いつでも、だれでも、どこでも学習することができ、その成果が活用される社会をめざす」生涯学習社会の実現に向けて生涯、学ぶことのできる方策を考え、プランニングをします。</p> <p>*自分のふるさとやその他、市町村、県等をモデルに、地域の課題解決のためにどのような生涯学習プランが必要かを考察し、生涯学習プログラムを作成し、生涯学習社会の実現に向けて考えます。</p> <p>*地域を見つめなおし、様々な課題解決にむけた取り組みを進めるための学習プログラム作成します</p>					
到達目標	<p>1 生涯学習について国の政策も交え、基礎知識を身につけ、自ら学び続けることができる。</p> <p>2 モデル市町村の地域課題を把握し、課題解決に向けた学習プランを作成することができる。</p> <p>3 地域の課題を解決するために、自らが、行動できる力を身につけることができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション	生涯学習とは何か 生涯学習社会の実現に向けて				
2	生涯学習の基礎	理念・考え方 日本国憲法、教育基本法 社会教育法等				
3	社会教育と生涯学習	社会教育法より 生涯学習理念の理解および、社会教育の理解				
4	まちづくりと生涯学習	課題解決にむけて人々の生涯学習とまちづくりとの関係				
5	公民館と生涯学習	地域に根差した生涯学習の拠点としての公民館の役割及び社会教育施設の役割				
6	人権学習と生涯学習	人権学習の重要性 学びをとおして 生涯学習社会の柱としての人権学習				
7	青少年教育と生涯学習	青少年をめぐる、学校と地域・家庭との連携の必要性 学社融合				
8	防災学習と生涯学習	災害を通して、防災についで地域の住民の学習の重要性と学習プログラム				
9	幸せのための生涯学習	さまざまな地域課題解決にむけて生涯学習プログラム作成のための基礎				
10	生涯学習プログラムの作成	モデル市町村の概要、特色等 調査及び理解				
11	生涯学習プログラムの作成	地域住民の生活状況・教育文化施設等の整備状況 課題等の理解				
12	生涯学習プログラムの作成	地域課題の把握・課題解決にむけた考察 プログラム作成				
13	生涯学習プログラムの作成	学習プログラムの具体的ノウハウと企画 広報 実施にむけて				
14	生涯学習プログラムの作成	予算・場所等 企画実施にまでの準備と実施 リスクマネジメント				
15	試験（プログラムの完成）と生涯学習プログラムのシェアリングおよびプレゼン PR					
予習内容	予習 事前にモデル市町村の情報を収集すること					
復習内容	復習 毎回だされる課題の整理					
教科書	資料は毎回配布します。 テキストは使用しない。 参考文献については資料に提示。					
成績評価	毎回提出してもらった課題またはレポート 60% 試験（生涯学習プログラムの完成物） 40% 6回以上欠席の場合、無資格となります。					
実務経験	文部科学省生涯学習局、三重県教育委員会生涯学習課 三重県熊野少年自然の家、三重県生涯学習センター所長として勤務。長年の生涯学習分野での実務をとおして生涯学習の重要性を示します。					
その他 特記事項	様々な学びのチャンネルをとおして、自分たちが幸せに生きるために、大切な「学び」を伝え、受講者自ら企画してもらったプログラムを楽しみにしています。一緒に、学びましょう。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権	伊藤信也	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。</p> <p>2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために、随時映像資料を上映する予定です。</p>					
到達目標	<p>①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。 ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。 ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。</p>					
回	学習内容					
1	授業概説：現代社会と人権					
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホブズの思想と近代人権概念の誕生					
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由					
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題					
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち					
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい					
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態					
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題					
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～					
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～					
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ					
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制					
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造					
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史					
15	21世紀の人権問題への視点を考える					
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。					
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は40%）、 2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は20%）					
実務経験						
その他 特記事項	歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。人権問題や差別問題に関心のある学生による積極的な授業参加と授業環境の保持を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ジェンダー論	松田 いりあ	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。					
到達目標	この授業では、学生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。					
回	学習内容					
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明					
2	ジェンダーとは					
3	セクシュアリティとは					
4	ジェンダーの社会化					
5	ジェンダーと子育て、教育					
6	パートナーシップ、セクシュアリティとジェンダー					
7	ジェンダーと労働					
8	ジェンダーと身体					
9	ジェンダーとスポーツ					
10	ジェンダーと空間					
11	ジェンダーに関する条約、法律					
12	「男性性」と男性学					
13	広報・広告における女性表象					
14	ファッション・メディアにおける女性表象					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：前回の授業内容の確認。 復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に伝える。					
成績評価	授業内課題 50%、レポート 50%。全 15 回のうち 10 回以上の出席者が成績評価の対象となる。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
歴史学	望月 秀人	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思えます。					
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：歴史学とは					
2	大航海時代と世界の一体化					
3	宗教改革と宗派分裂					
4	宗教戦争と世俗化					
5	中世の封建制					
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ					
7	「絶対王政」の意義と限界					
8	フランス革命の勃発					
9	「市民革命」と近代国家					
10	革命とナショナリズムの時代					
11	工業化とその影響					
12	第一次世界大戦の衝撃					
13	戦後処理方法の変化					
14	大恐慌とファシズム					
15	近代という時代について					
予習内容 復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。					
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のもは持っていた方が良いでしょう。					
成績評価	定期試験 60%、レポート 40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6 回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。					
実務経験						
その他 特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地理学	山崎 智博	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	日本国内を中心にして都市・地域を人文地理学の立場から考察する。私たちが生活している都市や地域は単独で存在しているのではなく他の都市や地域との結びつきの中で存在している。またその内部構造も単一ではなく様々な要素により構成されている。歴史的な経緯を踏まえてこうした結びつきや構造を理解することにより、私たちが生活する地域の特徴や問題を考えていくことができるようになってもらいたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・地域を人文地理学の立場から理解できるようになる。 ・都市・地域の性格や抱えている問題を説明できるようになる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（都市・地域の人文地理学）					
2	都市・地域とは					
3	都市・地域の歴史					
4	都市・地域の結合関係					
5	都市の内部構造					
6	都市の商業・サービス業					
7	都市の工業					
8	都市のオフィス立地					
9	都市・地域の交通					
10	都市のエスニック集団					
11	大都市圏構造					
12	住宅と住居					
13	都市問題・都市計画					
14	都市を歩く					
15	地域・都市の人文地理学まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献等に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	1回の授業で1つのテーマを扱う予定です。ただしテーマに関する資料などを使うことにより進度を調整する場合があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学	吉本 陵	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。					
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。					
回	学習内容					
1	ガイダンス&イントロダクション					
2	哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論					
3	哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味					
4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて					
5	現代社会と動物の問題（2）家畜について					
6	現代社会と動物の問題（3）肉食について					
7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則					
8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状					
9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想					
10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について					
11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について					
12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題					
13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状					
14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題					
15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？					
予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りを行うこと。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。					
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学 I	今本 幸平	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでも分かりにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕					
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕					
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕					
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕					
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕					
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕					
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕					
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』					
10	シェリー『フランケンシュタイン』①					
11	シェリー『フランケンシュタイン』②					
12	シェリー『フランケンシュタイン』③					
13	メリメ『カルメン』					
14	デュマ・フィス『椿姫』①					
15	デュマ・フィス『椿姫』②					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が 5 回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20 分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学 I」と「文学 II」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ	今本 幸平	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部					
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部					
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』					
5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半					
6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半					
7	ゲーテ『魔王』					
8	グリム童話					
9	シャミッソー『影をなくした男』					
10	ホフマン『砂男』					
11	シュペーリ『ハイジ』①					
12	シュペーリ『ハイジ』②					
13	カフカ『変身』					
14	シュリンク『朗読者』第1部					
15	シュリンク『朗読者』第2、3部					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
美学	岡野 智子	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学などとも深い関わりをもつ。 本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、絵画や工芸品を通じて多方面から考察、人々の暮らしや人生、社会における美の在り様に理解を深める。					
到達目標	伝統的な意匠への知見を深め、講義毎に作品と対峙して自己の内なる感性を培い課題に表し、その積み重ねを以て自己の美意識を豊かに築き明確に表現する力を養う事ができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・日本美術の成立1（縄文～平安）					
2	日本美術の成立2（平安～桃山）					
3	日本美術の成立3（江戸）					
4	吉祥の意匠―福を招く図様―					
5	桜の意匠―桜への想いとその表象―					
6	涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―					
7	秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―					
8	冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―					
9	月次絵の楽しみ1―年中行事と景物―					
10	月次絵の楽しみ2―花鳥と風俗―					
11	伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―					
12	源氏物語の意匠―留守模様遊ぶ―					
13	動物の意匠―霊獣からペットまで―					
14	渡来の意匠と表現1―憧れの南蛮ファッション―					
15	渡来の意匠と表現2―西洋画風の影響―					
予習内容 復習内容	各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、授業内容を振り返りつつ作品と向き合う経験を通して自らの「見る力」を養う（経費は自己負担、自己責任で行う）。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを推奨する（現況では感染防止策を十分に講じて実施すること）。					
教科書	教科書は使用しない。資料を毎回配布。参考文献は初回の講義でリストを配布。					
成績評価	①授業時に出席時に提出するコメント内容 50% ②展覧会等の見学レポート内容 20% ③期末レポート内容 30%（②については感染状況により比率を③と調整することがある）					
実務経験						
その他 特記事項	オリエンテーションで重要な連絡を行う。受講希望者は必ず初回の授業に出席し、そこで提示の受講 注意に同意の上、履修すること。毎回講義で触れた作品の中からコメント提出を求める。受講者は提出 回数数が原則として10回以上の者のみ③の提出資格が得られる。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
比較文化論	嶋田 宏司	講義	2		2	3
授業概要 授業目的	<p>西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビズムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。</p> <p>芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。</p>					
到達目標	<p>西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。</p> <p>美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。</p>					
回	学習内容					
1	フランスにおける、リアリズムから印象主義まで					
2	ギュスターヴ・クールベ					
3	バルビゾン派 1					
4	バルビゾン派 2					
5	印象主義とクロード・モネ					
6	印象主義の展開と技術的、および理論的側面					
7	黒田清輝、久米桂一郎					
8	藤島武二					
9	青木繁					
10	梅原龍三郎					
11	梅原龍三郎、安井曾太郎とフォーヴィスム					
12	安井曾太郎					
13	萬鉄五郎					
14	萬鉄五郎とキュビズム					
15	学んできた美術史を振り返る					
予習内容 復習内容	<p>予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでもいいですが、『そのとき、西洋では 時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。</p>					
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。					
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域史	山崎 智博	講義	2		3	3, 4
授業概要 授業目的	三重県の近現代史を都市や地域の形成過程を中心にして見ていく。三重県内には様々な特徴を持った都市・地域が存在している。そのような都市・地域が形成されてきた歴史的背景を知ることによりそれぞれの都市や地域の特徴を理解していけようになるだけでなく、現在抱えている様々な問題を理解していけるようになってもらいたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の都市や地域の形成過程を身につけられるようになる。 ・歴史的な経緯を踏まえて三重県内の都市や地域を理解し説明できるようになる。 					
回	学習内容					
1	三重県の近現代（オリエンテーション）					
2	明治の三重：三重県の誕生と市制町村制の施行					
3	明治の三重：鉄道の開設と三重					
4	第1次世界大戦後の三重：県内私鉄鉄道の消長と電化					
5	第1次世界大戦後の三重：都市計画法の実施と三重					
6	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：商業の近代化と百貨店・道路交通網の整備・鉄道の建設と統廃合					
7	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：都市計画事業の実施と戦争					
8	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：戦時下の都市計画					
9	戦後復興期の三重：戦災と戦災復興計画					
10	戦後復興期の三重：復興期の交通					
11	高度成長期の三重：流通の近代化と商店街					
12	高度成長期の三重：鉄道交通と観光開発の進展					
13	低成長期の三重：道路交通網の整備と地域交通					
14	低成長期の三重：大型店の伸張と都市・観光					
15	三重県の近現代史まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地図、写真、映像資料等を適宜使用する予定です。 ・地図、写真、映像資料等を扱うので授業の進度は調整することがあります。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自治体行政特論	石原 洋介	講義	2		3	3, 4
授業概要 授業目的	この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定しており、自治体行政の仕組み等を理解することが、本講義の目的となる。 法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することで理解が深まる。					
到達目標	現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深められる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、津市の概況、防災について（防災室）					
2	津市の政策について（政策財務部）					
3	財政について（政策財務部）					
4	津市の福祉について（健康福祉部）					
5	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）					
6	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）					
7	津市の教育について（教育委員会事務局）					
8	都市計画について（都市計画部）					
9	環境行政について（環境部）					
10	選挙について（選挙管理）、津市議会傍聴にむけて					
11	津市議会傍聴【12月】※津市議会 HP の映像配信の市長					
12	津市シティプロモーション（広報課）					
13	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）					
14	参加と協働のまちづくりについて（市民部）					
15	自治体経営（市長）					
予習内容 復習内容	予習：各講義内容について津市 HP 等を活用し、担当部課の業務内容に目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義中の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	教科書・参考文献の指定はない。 毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。					
成績評価	出席時の講義ノート（60%）、議会傍聴レポート（40%）を併せて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外とする。					
実務経験	講師は、現職の津市長をはじめ各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かし、実践的な自治体基礎知識の養成に努める。					
その他 特記事項	毎回、講義の概要、感想等をまとめた「講義ノート（A4判）」を提出する。 12月津市議会を傍聴し、「議会傍聴レポート（A4判）」を提出する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
キャリア形成セミナー	南 有哲	講義	2		2, 3	3, 4
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。 ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます（講師は毎回変わります）。 ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。 					
到達目標	<p>全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。</p> <p>毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンス（学生部長）／就職活動と目標設定					
2	起業について					
3	ハラスメントと職場環境					
4	企業から求められる人材とは					
5	地域貢献を仕事にする					
6	変化の激しい時代にやるべきこと					
7	地域を知る、地域で働く					
8	ライフプランと金融リテラシー					
9	ポジティブ心理学と SDGs					
10	税を知る					
11	防災とまちづくりに関わる					
12	中小企業と信用保証協会の役割					
13	公的年金制度を学ぶ					
14	労働関連の法律を知る					
15	まとめレポートの作成					
予習内容 復習内容	事前にお知らせする各講師のテーマについて調べ、各回を終えた後に考察メモを復習してください。					
教科書	テキストは使用しない。毎回、各講師より配布されるレジュメ・資料を使用します。					
成績評価	出席状況や毎回の小レポート、最終レポートの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。5回を超えて欠席した場合、評価の対象外とします。					
実務経験	津市長、労働局職員、社会保険労務士をはじめとする各分野の専門職の方々がそれぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などをお話します。					
その他 特記事項	2024年4月の開講時点で、あらためてシラバスを配布する予定です。 1年生の履修を原則とします。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目 I	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	<p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目Ⅱ	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	<p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
農林体験セミナー	石原 洋介	実習	2		2, 3	3
授業概要 授業目的	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> 土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。 2024年8月28日（水）～8月30日（金）の3日間、農場で実施予定（宿泊） <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> 流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、平倉演習林（津市美杉町）において3日間の実地演習、講義を実施する。 2024年9月18日（水）～9月20日（金）の3日間、演習林で実施予定（宿泊） 					
到達目標	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> 土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。 <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。 演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。 					
学習 内容	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <p>(1)授業の概要説明、(2)三重の特産農産物の概要、(3)ダイズの栽培管理、(4)世界と日本の食糧事情、(5)イネの収穫、(6)肉牛（松阪牛）の肥育管理、(7)豆腐作り、(8)食の安全・安心と社会、(9)茶（伊勢茶）の加工Ⅰ（茶の栽培、歴史、加工の原理など）、(10)茶（伊勢茶）の加工Ⅱ（茶の加工の実践）、(11)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅰ（一年を通じたウンシュウミカンの栽培管理の概要）、(12)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅱ（摘果、水管理など栽培管理の実践）、(13)うどん作り（うどん作りの歴史、加工の原理など）、(14)うどん作りⅡ（うどん作りの実践）、(15)授業の総括</p> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <p>(1)～(5)（1日目）演習林の概要、宿舎利用に関する注意事項の説明、森林の多面的機能についての林内学習、天然生林・二次林の林分構造と植生観察、紀伊半島暖温帯に位置する演習林の特徴的な樹木を覚える、人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学、(6)～(10)（2日目）日本の森林・林業の課題解説、身近な木製品とトレーサビリティについて調べる、林業体験：人工林内での間伐・伐倒から玉伐り、林産加工：コースター加工、丸太ベンチ製作、(11)～(15)（3日目）環境学習：涼しい森林溪流環境での散歩学習とふりかえり、レポート作成、ディスカッション、最終レポート作成、帰路：木材市場などを経由し帰学。</p> <p>※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林と周辺地域が学習対象です。以下を見ておくことをお勧めします。(1)三浦しをん著「神去なあなあ日常」(2)映画「WOODJOB!」のDVDまたはBD。</p>					
予習内容 復習内容	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <p>事前：moodleに授業で使用する資料を予め載せておくので予習しておく。 事後：授業項目で課される課題について、授業内容を基に授業で使った資料に加え、関連事象を自分で調査するなど復習しておく。</p> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <p>事前：森林・林業林産業・環境保全に関する話題や時事問題について調べておく、具体的なテーマ・キーワードを事前に示すので課題に沿った予習を行い各自プレゼンができる準備をしておく。 事後：授業項目で示される課題について、講義・実習の学習内容をふまえて最終レポートにまとめること。</p>					
教科書	必要に応じて資料を配布する。					
成績評価	<p>①農場コース：レポートならびに授業態度を総合判断する。</p> <p>②演習林コース：演習への取り組み態度50%、レポート50%。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林で講義・実習・体験学習を行うものです。本講義は、①農場コースと、②演習林コースの2コースがありますが、両コースの同時受講はできません。 希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。 受講生は事前に開催するガイダンスに参加すること（日程は決まり次第掲示します）。 受講要件 学生教育研究賠償責任保険に加入すること。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食と観光実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	3. 4
授業概要 授業目的	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。					
学習 内容	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13：00－14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10－15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20－17：00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00－15：30 展示見学・講義 15：40－17：00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00－12：00 施設見学・体験 12：00－13：00 昼食・移動 13：00－14：00 農を活かした観光開発 14：10－16：10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00－16：10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13：00－17：00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00－16：00 成果発表会 16：00－17：00 講評・まとめ</p> <p>※受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>					
予習内容 復習内容	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。					
教科書	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）					
成績評価	①グループワーク等への取組姿勢 60%、②成果発表レポート 40% ※一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。					
実務経験	行政での委員経験があります。講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。					
その他 特記事項	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
次世代産業実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	3
授業概要 授業目的	近年、社会のデジタル化が著しく発展しており、社会変革の転換点となっている。様々なデジタルツールが、個人でかつ無料で提供され、時間や労力のかかっていた知的生産物は苦勞することなく瞬時に生み出せるようになってきた。しかしながら、一方ではこのデジタル化の変化に適応できなければ、社会で必要とされる能力を獲得できない可能性が高い。そのような変革期において、最先端のデジタル技術に触れ、それらを実践的に利用することで、今後ますます加速する情報化社会の変貌に対し次世代を担う三重創生ファンタジスタとして備えるべき発想力と実践力を学ぶ。					
到達目標	現在、利用可能なデジタルツールについて知り、それらを扱えるスキルを身につけることで、地域や組織へのアプローチを考えソリューションを導き実行できる力を獲得する。過去の産業構造から、現在、未来へ進化する産業・社会を見通し、常に時代の流れを読むと同時に、膨大な労力や時間を要する課題に対し、これらのツールとスキルを用いて、少ない人材で解決する可能性を提示する人材となる。本科目では三重県の地域として特徴的な魅力及び課題を洗い出し、これらのツールを使用して解決策を提案・もしくはプロモーションを新たなプレゼンテーション形式として実践的に行う。					
学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> ●本講義 Day1 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の発展と、デジタルがもたらす産業の変革 三重大学 三橋氏 ・CeMDS の案内と説明 三重大学 若林氏 ・各ソフトウェアの説明 ●本講義 Day2 ハードウェア #3D プリンター #ドローン #VR #メタバース <ul style="list-style-type: none"> ・3D プリンターを用いたモノづくりと立体造形物の試作 ・ドローンにおける技術と産業への応用事例について ・現実社会とデジタル社会の境界線をなくす VR・AR 技術 ・グループワークと立体造形物の確認 ●本講義 Day3 ソフトウェア #動画編集 #アバター #CG #VFX <ul style="list-style-type: none"> ・adobe 製品のソフトウェアについて ・3D グラフィックの制作 ・アバター制作 ・動画編集 ●本講義 Day4 三重県の産業への応用と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・三重県内の伝統産業と次世代産業について 四日市市文化まちづくり財団 西浦氏 ・グループワーク ・ハードウェアもしくはソフトウェアの産業への応用実践 ・グループでの発表と質疑応答 					
予習内容 復習内容	本講義までに、デジタル技術を利用した技術革新（XR）について 800 字以内でレポート作成し提出する。					
教科書	なし。必要に応じて参考文献を紹介する。					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。 ・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う講義・グループワーク等に参加する。後期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
医療・健康・福祉実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	3
授業概要 授業目的	当授業は三重県の重点課題である医療・健康・福祉に関して、名張市をフィールドとし、現場で学ぶ PBL 型授業である。地域共生型社会で取組を続ける地域住民の健康や QOL について、そのコミュニティに参加することで、医療・健康・福祉に関わる地域内のステークホルダーの取組、及びそれら各領域の横断的取組について理解を深める。医療、福祉、健康を目的とした各種取組みを知ることにより、自治体や地域団体の役割を考察し提案していく機会を設ける。					
到達目標	三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目では、3～4 人のグループワーク及びフィールドワークを通して得た情報から地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについてのデータの統合・深い分析・考察を加え、得られた成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することができる。受講生一人一人が個々で可能な社会貢献を考え実践する主体性を獲得し、異なる立場の間に立って円滑にコミュニケーションが取れる力を身につける。					
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●現地学習 Day1 #地域医療と包括ケア 名張市 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスと名張市の現状 まちの保健室について 名張市 柴垣様 ・まちの保健室見学とフィールドワーク ・名張市立病院での見学と講義 三重大学医学部附属病院 山本先生 ●現地学習 Day2 #健康長寿への取組 名張市 <ul style="list-style-type: none"> ・三重県の医療・健康・福祉について 鈴鹿医療科学大学 河尻先生 ・赤目地域の取組について ・フィールドワーク ・フィールドワークのデータ整理 ●現地学習 Day3 #中山間地域の医療 #地域間コミュニティが行う健康づくり 名張市 <ul style="list-style-type: none"> ・地域をつなぐ、心の健康とケアができる場所づくり 一般社団法人つなぐ 北森氏 ・名張市旧市街地見学とフィールドワーク ・グループワーク及びフィードバック ●まとめ学習 Day4 グループワーク及び最終発表 三重大学 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドで得たデータのまとめ、感想のフィードバック ・プレゼン資料と原稿作成 ・発表と質疑応答 <p>《注意》現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては変更の可能性もある</p>					
予習内容 復習内容	事後レポート及び、最終課題の提出					
教科書	なし					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。 ・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う現地実習・グループワーク等に参加する。前期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。 ・学生教育研究賠償責任保険に必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある（詳細は後日連絡）。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
公衆衛生学	大槻 誠	講義	2	栄養士必修	1, 2, 3	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	公衆衛生は、医療の基礎であり現代社会は、公衆衛生のシステムの上に日々の生活の安全が保障されている。公衆衛生学の目標は、個人および集団の健康を守り増進する事にある。 本講義では、少子化や高齢化、生活習慣病など、わが国や三重県が抱える公衆衛生にかかわる様々な問題点を理解し、将来実践的に応用できる能力を身に着けることを目指す。					
到達目標	感染症の歴史から現代の健康問題と社会制度に至るまで、三重県における具体的な最新データを基に、社会や環境が人の健康に与える影響、および保健制度を正しく理解し、栄養士としての職務を遂行するのにふさわしい知識を習得することを目標とする。					
回	学習内容					
1	社会と健康					
2	環境と健康					
3	健康、疾病、行動にかかわる統計資料					
4	健康状態・疾病の測定と評価					
5	生活習慣の現状と対策					
6	主要疾患の疫学と予防対策					
7	保健・医療・福祉の制度					
8	地域保健					
9	母子保健					
10	成人保健					
11	高齢者保健・介護					
12	産業保健					
13	学校保健					
14	国際保健					
15	精神保健					
予習内容 復習内容	予習：教科書を通読する。必要に応じて関連する参考図書に目を通して予習する。 復習：教科書の該当部分および講義ノートを復習し、重要な語句などをノートに整理する。					
教科書	教科書：「社会・環境と健康」辻 一郎、吉池 信男 編著 南江堂					
成績評価	試験 80%、小テスト（課題の場合もあり）20%。					
実務経験						
その他 特記事項	欠席は5回までとし、6回以上の欠席者は正当な理由がない限り評価の対象外となります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉論	片山 響	講義	2	栄養士必修	1, 2, 3	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>私たちが安心して生活するうえで、疾病、障害、貧困など生活の様々な課題のセーフティネットの役割を果たす「社会保障」、「社会福祉」の仕組みを学ぶことは大変重要である。本講義では社会保障と社会福祉の法律や仕組み、課題等を概論的に学び、他の専門職と協働し援助するための基礎的知識と方法を修得すること、また三重県内の地域福祉の状況を学び、将来専門的分野から地域社会で主体的な役割を果せるような考え方や姿勢も習得する。</p>					
到達目標	<p>①日本が直面する少子高齢化社会の現況を学び、課題と対策を理解している。 ②社会福祉の歴史、法律、制度を学び、「社会福祉とは何か」を理解している。 ③栄養士が地域社会において社会福祉の視点から、多職種と連携して主体的に役割を果たすための援助方法を習得する。</p>					
回	学習内容					
1	少子高齢化社会の現状と課題					
2	社会福祉の主な法律と組織					
3	介護保険制度と高齢者福祉					
4	障害者福祉					
5	精神保健福祉					
6	生活困窮者支援					
7	児童福祉					
8	医療保険と健康施策					
9	社会福祉における援助方法					
10	社会福祉制度演習					
11	社会福祉の歴史					
12	地域福祉					
13	医療と福祉の連携					
14	年金保険					
15	男女共同参画					
予習内容 復習内容	<p>予習：テキストの該当箇所を読んで概要を理解しておく。 復習：講義資料の内容を整理する。</p>					
教科書	コメディカルのための社会福祉概論（講談社）					
成績評価	平常点20%、中間レポート40%、まとめのレポート40%、レポート内容は直前授業で告知。					
実務経験						
その他 特記事項	歴史、法律、制度など堅苦しい内容もありますが、行政機関の職員としての経験をふまえ、受講生が日本社会の直面している福祉分野の課題を理解し、また考えられるような講義にしたいと思います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
解剖生理学	相川 悠貴	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>健康管理の手段を学ぶためには、対象となる人体を構築する器官・臓器・組織の構造・機能について理解する必要がある。その理解をもとに、栄養の消化吸收機構、病気の状態、傷病者に対する栄養管理等の発展的な知識を身に付けていくことになる。</p> <p>本講義では、各器官系の基本的な構造・機能についての知識の獲得を目的とする。本講義で獲得する知識は、栄養学、応用栄養学、臨床病態学、臨床栄養学、運動保健学等、栄養士関連科目を学ぶ上での土台になる。</p>					
到達目標	<p>①各器官系の構造に関する用語を覚える。</p> <p>②各器官系の機能を理解する。</p>					
回	学習内容					
1	人体の構造・器官・組織					
2	細胞・組織の構成					
3	消化器系 1：消化管の構成と嚥下・咀嚼・消化管運動					
4	消化器系 2：消化・吸収					
5	循環器系					
6	小テスト①と解説・復習					
7	血液系					
8	呼吸器系					
9	腎・尿路系					
10	骨格系、筋肉系					
11	小テスト②と解説・復習、生殖器系					
12	内分泌系					
13	神経系					
14	感覚器系、免疫系					
15	消化器系と腎・尿路系を中心とした復習					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の次回学習内容範囲を読んでおく。</p> <p>復習：授業内で紹介した重要箇所の読み直しを行い、理解と記憶に努める。</p>					
教科書	「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版」 志村二三夫／岡純／山田和彦編、洋土社。					
成績評価	小テスト 2 回 (25%×2)、定期試験 (50%)。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
解剖生理学実験	相川 悠貴	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>健康管理の手段を学ぶためには、対象となる人体を構築する器官・臓器・組織の構造・機能について理解する必要がある。その理解をもとに、栄養の消化吸収機構、病気の状態、傷病者に対する栄養管理等の発展的な知識を身に付けていくことになる。その人体の構造と機能に対する理解を深める実験を、標本や自身の身体を用いて行う。</p> <p>本講義では、解剖生理学講義において学習する内容の理解を深めることと、簡易な身体評価手技を取得することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①生理学実験を行い、その測定結果の意味を説明できる。</p> <p>②標本の肉眼的観察、組織学的観察を行い、各臓器の詳細な構造を理解する。</p>					
回	学習内容					
1	実験概要の説明、生理応答測定練習					
2	生理学実験：安静負荷による生理応答の観察					
3	生理学実験：運動負荷による生理応答の観察					
4	解剖学実験：顕微鏡による組織切片（血液・リンパ系）の観察					
5	解剖学実験：顕微鏡による組織切片（循環器系）の観察					
6	解剖学実験：筋と関節の確認					
7	解剖学実験：運動機能制限体験					
8	解剖学実験：臓器標本（消化器系、腎・尿路系）の観察					
9	解剖学実験：臓器標本（循環器系、呼吸器系、生殖器系）の観察					
10	生理学実験：肺機能測定					
11	生理学実験：感覚器に関する実験					
12	生理学実験：環境による生理応答の観察					
13	解剖学実験：顕微鏡による組織切片（消化器系）の観察					
14	解剖学実験：顕微鏡による組織切片（腎・尿路系）の観察					
15	実験のまとめと機器の整理					
予習内容 復習内容	<p>予習：次回実験内容に関連した解剖生理学講義の復習。</p> <p>復習：実験内容の基となる解剖生理学の原理の理解に努める。</p>					
教科書	解剖生理学講義で使用する教科書および本実験配布プリント。					
成績評価	実験の参加・意欲・態度 40%、実験内容をまとめるレポート 60%により評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
運動保健学	相川 悠貴	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>健康管理の手段の一つに、運動がある。運動が身体に及ぼす影響は多大であり、運動を効果的に行えば健康に大きく寄与できる。一方で、運動は時に健康を害することもある。そのような運動が身体に及ぼす影響について、健康管理の観点から解説する。加えて、一部の運動様式を継続的に行うスポーツ競技者の身体的や生理学的変化についても解説する。</p> <p>本講義では、運動の知識を高め、自身と他者の健康を導く能力の獲得を目的とする。本講義では、解剖生理学、生化学、栄養学、応用栄養学、臨床病態学、臨床栄養学等の栄養士関連科目の知識の復習も組み込まれる。</p>					
到達目標	<p>①健康を高める運動を説明できる。 ②健康を害する運動を説明できる。 ③スポーツ競技者の身体的特徴を理解する。</p>					
回	学習内容					
1	運動保健の概要、運動の種類					
2	運動とエネルギー代謝					
3	運動と呼吸・循環					
4	運動と筋①：筋の性質					
5	運動と筋②：トレーニング					
6	運動と環境					
7	運動と免疫					
8	運動と脳・心					
9	運動と傷害・障害					
10	運動と増量・減量					
11	瞬発系競技者・持久系競技者の栄養管理					
12	球技競技者の栄養管理					
13	児童の健康と運動					
14	高齢者の健康と運動					
15	運動・スポーツと保健のまとめ					
予習内容 復習内容	<p>予習：次回学習内容に関する自身の疑問点を抽出する。 復習：授業内で紹介した重要箇所の読み直しを行い、理解と記憶に努める。</p>					
教科書	「栄養科学イラストレイテッド 運動生理学」 麻見直美／川中健太郎編、洋土社。					
成績評価	小テスト 5 回 (20%×5)。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
病態学（臨床病態学）	岩崎 泰正	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養学の立場からチーム医療の一員となるための基本的な知識を習得するため、症候学、病態学、環境要因の影響、という3つの切り口から講義を進める。 単に知識を身に付けるだけでなく、医学を理解するための科学的思考法を身に付けてもらいたい。</p>					
到達目標	<p>①症候・病態・環境要因という多方面の切り口から病態学の基本知識を身に付ける。 ②病気や症状はなぜ起こるのか、という発症機序のレベルまで理解する。 ③医療人に必要な考え方、すなわち科学的・論理的に物事を把握・解析する力を養う。</p>					
回	学習内容					
1	アルコールの医学					
2	喫煙の弊害					
3	メタボリックシンドローム					
4	栄養と健康					
5	症候学					
6	消化器疾患：総論と各論					
7	呼吸器疾患：総論と各論					
8	循環器疾患：総論と各論					
9	腎泌尿器疾患：総論と各論					
10	内分泌疾患：総論と各論					
11	糖尿病：総論と各論					
12	血液疾患：総論と各論					
13	免疫疾患：総論と各論					
14	脳神経疾患：総論と各論					
15	認知症とアルツハイマー病					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当範囲に目を通す。 復習：教科書の該当範囲を改めて通読する。</p>					
教科書	系統看護学講座基礎分野『病理学』第6版 疾病のなりたちと回復の促進1 医学書院					
成績評価	<p>基本的に試験成績で評価し、出席は参考とする。 6回以上欠席した学生は、試験の受験資格なしとする。</p>					
実務経験	<p>内科医として国立大学教授（専門は内科・内分泌代謝学）を長年務め、現在は医療栄養学科教授を務めている。その経験に基づき、疾患の病態と栄養の重要性を分かりやすく解説する講義を行う。</p>					
その他 特記事項	<p>プロの医療従事者としての自覚を持った学生さんを育てたい。 そのために一方通行ではなく、活発な質疑応答による双方向性の授業を行う予定である。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生化学	相川 悠貴	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>生化学は、代謝、遺伝、発生、分化、運動、免疫、記憶や思考などの生命現象を、分子レベルで説明する学問である。食品を摂取して体内に取り込む栄養は、生化学反応により根拠をもって説明できるようにする。</p> <p>本講義では、糖質・脂質・タンパク質の構造とその生体内代謝機構についての知識の獲得を目的とする。本講義で獲得する知識は、食品学、栄養学、臨床病態学、臨床栄養学、運動保健学等、栄養士関連科目を学ぶ上での土台になる。</p>					
到達目標	<p>①生体分子の構造を覚える。</p> <p>②生体内での栄養素の変化や働きを化学的に説明できる。</p>					
回	学習内容					
1	生体分子					
2	細胞の構造と機能					
3	生体成分の機能と構造 1 : 糖質					
4	生体成分の機能と構造 2 : アミノ酸、タンパク質					
5	生体成分の機能と構造 3 : 脂質					
6	生体成分の機能と構造 4 : 核酸					
7	生体成分の機能と構造 5 : 酵素					
8	生体のエネルギー源と代謝					
9	糖質の代謝 1 : 解糖系、TCA 回路					
10	糖質の代謝 2 : グリコーゲンの合成と分解、糖新生、血糖値の調節					
11	脂質の代謝 1 : 脂肪酸・トリグリセリドの代謝					
12	脂質の代謝 2 : ケトン体・コレステロールの代謝					
13	アミノ酸の代謝 1 : 窒素の代謝					
14	アミノ酸の代謝 2 : 炭素骨格の代謝、アミノ酸代謝異常					
15	代謝の相互関係と環境応答、免疫					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の次回学習内容範囲を読んでおく。</p> <p>復習：授業内で紹介した重要箇所の読み直しを行い、理解と記憶に努める。</p>					
教科書	健康・栄養科学シリーズ 生化学 石堂一巳・福渡努編、南江堂。					
成績評価	授業内小テスト 7 回の合計 (100%)					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生化学実験	相川 悠貴	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>生化学は、代謝、遺伝、発生、分化、運動、免疫、記憶や思考などの生命現象を、分子レベルで説明する学問である。食品を摂取して体内に取り込む栄養は、生化学反応により根拠をもって説明できるようになる。その生化学反応の証明には、実験により行われる。本授業は、入学後初めての実験の授業となるため、基礎的な実験技術を用いて行う。</p> <p>本実験では、生化学講義において学習する内容の理解を深めることと、基礎的な実験手技を取得することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①安全かつ精確な実験技術の基礎を習得する。</p> <p>②各種生体成分の定性及び定量実験を通して生体成分の特性を説明できる。</p>					
回	学習内容					
1	実験概要、実験機器の説明					
2	生化学実験に必要な基礎知識の学習					
3	たんぱく質の変性					
4	たんぱく質の等電点沈殿					
5	糖の定性反応					
6	定性反応による溶液中糖成分の判定					
7	糖の定量					
8	PC を用いた検量線の作成					
9	温度が酵素反応に及ぼす影響					
10	pH が酵素反応に及ぼす影響					
11	基質濃度が酵素反応に及ぼす影響					
12	たんぱく質・アミノ酸の定性反応					
13	定性反応による溶液中たんぱく質・アミノ酸成分の判定					
14	脂質の定量					
15	DNA の抽出					
予習内容 復習内容	<p>予習：実験回に関連する高校レベルの化学知識を身につけておく。</p> <p>復習：実験内容の基となる生化学の原理の理解に努める。</p>					
教科書	生化学講義で使用する教科書および配布プリント。					
成績評価	実験の参加・意欲・態度 40%、実験内容をまとめるレポート 60%により評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	白衣・実験室内移動に適した靴の着用等、安全に実験を進めるために必要なことを要求する（詳しくは初回授業に紹介する）。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品学総論	飯田 津喜美	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食品に含まれる様々な成分の種類、性質、所在について学ぶ。具体的には、主に炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、無機質の特徴について解説する。さらに、食品の色・味・香りに関する成分、食品成分の変化等についても講義する。それらを通じて、食品に関する知識を深めることを目的とする。					
到達目標	① 食品に含まれる栄養素成分、性質、所在について説明できる。 ② 食事設計及び調理上での役割を理解し、有効な食材の選択につなげることができる。					
回	学習内容					
1	食品学総論概要、人間と食の関わり					
2	日本食品標準成分表					
3	食品成分（水分）					
4	食品成分（炭水化物）					
5	食品成分（たんぱく質）					
6	食品成分（脂質）					
7	食品成分（ビタミン）					
8	食品成分（無機質）					
9	食品の二次機能 嗜好成分及び有害成分					
10	食品物性と官能評価					
11	食品成分の変化（酸化、加熱）					
12	食品成分の変化（酵素、成分間反応）					
13	食品の機能性					
14	バイオテクノロジーと新しい食品					
15	食品学総論のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、当該講義の内容を予習する。 復習：授業内に配付した資料とあわせ、当日の講義内容を理解する。					
教科書	栄養科学シリーズ NEXT 食べ物と健康、食品と衛生 食品学総論第4版 辻 英明・海老原清・渡邊博幸・竹内弘幸編 講談社					
成績評価	平常点 20%、授業内小テスト 40%、期末試験 40%で成績評価を行う。平常点は、出席や提出物を総合的に評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品学実験	飯田 津喜美	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食品学に係る講義の理解を深めるため、食品に含まれる一般成分の定性あるいは定量分析を行い、学んだ知識の実践を行う。また、実験の基礎から始め、実験を安全に行うために必要な知識や基本的操作方を習得する。実験内容をよく理解して結果を考察し、実験レポートにまとめることにより、食品学の知識と技術を結びつけ定着させることを目的とする。					
到達目標	① 実験の基礎知識や技術を身につける。 ② 実験を通して、食品の特性を説明できる。 ③ 一緒に実験する班員と協力し合い、実験を遂行できる。					
回	学習内容					
1	実験の基礎					
2	基本操作 計量・計測					
3	基本操作 容量分析、水分の定量1（るつぼの恒量・試料の乾燥）					
4	中和滴定による食酢酸度測定、水分の定量2（重量測定）					
5	食品の食塩濃度測定					
6	色素の分析					
7	調理と色素					
8	食品の物性（トロミ剤、ゲル化剤）					
9	基本操作 比色分析					
10	たんぱく質の定量1（分画）					
11	たんぱく質の定量2（ローリー法）					
12	基本操作 顕微鏡 食品成分の観察					
13	褐変試験					
14	天然色素の安定性					
15	食品学実験のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：当該箇所に関連する教科書を読み、当該実験の内容を予習する。 復習：実験結果をまとめ、当該事項について理解する。					
教科書	改訂 基礎からの食品・栄養学実験 建帛社、実験資料の配付					
成績評価	平常点 30%、実験に取り組む意欲・態度 20%、レポート 50%で成績評価を行う。平常点は出席や授業中の提出物等により評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	教室の都合等により内容順を変更することがあります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品学各論	飯田 津喜美	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>日常で利用されている食品の分類や特性、利用・加工法等について解説する。また、県の特産品についても取り上げその特性等を解説する。 食品への理解を深め、食事設計に適切な食品選択及び利用法を考案する力を養うことを目的とする。</p>					
到達目標	<p>① 各種食品の分類と成分に関する基礎知識を身につける。 ② 各種食品の特性を基礎にした利用法を考えることができる。</p>					
回	学習内容					
1	食品学各論概要					
2	植物性食品の分類と成分 1 穀類					
3	植物性食品の分類と成分 2 いも類					
4	植物性食品の分類と成分 3 豆類、種実類					
5	植物性食品の分類と成分 4 野菜類					
6	植物性食品の分類と成分 5 果実類					
7	植物性食品の分類と成分 6 きのこと類、藻類					
8	動物性食品の分類と成分 1 食肉類					
9	動物性食品の分類と成分 2 乳類					
10	動物性食品の分類と成分 3 卵類					
11	動物性食品の分類と成分 4 魚介類					
12	調味料・香辛料					
13	嗜好飲料・油脂類の分類と成分					
14	発酵食品					
15	調理加工食品、食品の表示					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書を読み、当該講義の内容を予習する。 復習：授業内に配付した資料とあわせ、当日の講義内容を復習する。</p>					
教科書	<p>栄養科学シリーズ NEXT 食べ物と健康、食品と衛生 食品学各論第4版 小西洋太郎・辻 英明・渡邊博幸・細谷圭助編 講談社</p>					
成績評価	<p>平常点 20%、授業内小テスト 40%、期末試験 40%で成績評価を行う。平常点は、出席や提出物を総合的に評価する。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>グループ発表を取り入れることがある。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品加工学	飯田 津喜美	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食品素材の加工および保蔵の過程で生じる食品成分の質的・量的変化を理解し、加工工程を経て製品の製造までの工程について学ぶ。また、人に摂取されるまでの過程における安全性の確保、食品流通・保存等について理解を深める。					
到達目標	① 各種加工食品に関する基礎知識を身につける。 ② 各種加工・保蔵法のしくみを理解する。 ③ 食品加工に関する法規について理解する。					
回	学習内容					
1	食品加工学概要 食品の加工と保蔵の意義・目的					
2	食品成分の化学 食品の変化・変質					
3	食品保蔵の方法					
4	食品加工の方法と原理、技術					
5	食品の調理・加工に伴う食品成分の変化					
6	加工食品の規格・基準、食品表示基準					
7	農産加工品 穀類、豆類					
8	農産加工品 いも、野菜、キノコ類					
9	畜産加工品 肉類 卵類					
10	畜産加工品 乳類					
11	水産加工品					
12	油脂食品、発酵食品					
13	調理済み食品、食品の包装					
14	調味料、香辛料、嗜好食品					
15	食品加工学まとめ					
予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、当該講義の内容を予習する。学習内容に応じた加工・保蔵品を実際に調査しておく。 復習：授業内に配付した資料とあわせ、当日の講義内容を理解する。					
教科書	栄養科学シリーズ NEXT 食べ物と健康、食品と衛生 食品加工・保蔵学 海老原清・渡邊浩幸・竹内弘幸 編 講談社					
成績評価	平常点 20%、授業内小テスト 40%、期末試験 40%で成績評価を行う。平常点は、出席や提出物を総合的に評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	グループ発表を取り入れる予定である。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品の機能	大井 淳史	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食品学総論・各論や栄養学で学んできた食品の持つ機能について、機能の根底となる“作用”の観点から項目を整理・分類して教授する。特に生体調節機能を中心に、食品に含まれる成分による疾病の予防などの食品機能について講義する。					
到達目標	到達目標として、学生は栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の食品の機能に関する問題について、その内容が十分理解でき、解答することができるようになること。					
回	学習内容					
1	食品の機能とは					
2	機能性食品の制度					
3	抗酸化機能（活性酸素と生体）					
4	抗酸化機能性食品					
5	消化吸収と代謝（消化と吸収，ミネラル・ビタミンの吸収）					
6	消化吸収促進と代謝改善の機能性食品					
7	難消化，吸収阻害および微生物活性機能					
8	難消化炭水化物，食物繊維機能食品					
9	脂質関連代謝機能（脂肪酸の系列，ジアシルグリセロール，中鎖脂肪酸）					
10	脂質関連代謝機能（コレステロールの吸収と代謝）					
11	酵素阻害・酵素活性化機能（高血圧・糖尿病）					
12	酵素阻害機能性食品					
13	免疫系におよぼす機能					
14	神経系におよぼす機能					
15	食物アレルギー，第1回から第14回の振り返り					
予習内容 復習内容	予習：教科書を使用して、毎回の講義の該当箇所を予習すること。 復習：配布する授業のまとめプリントおよび課題を解いて復習すること。					
教科書	Nブックス 改訂 食品機能学 第4版，青柳康夫 編，建帛社 2021年					
成績評価	小テスト60%、レポート20%、平常点20%で成績評価を行う。 平常点は出席や提出物を総合的に評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品衛生学	飯田 津喜美	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食品衛生の目的とは、食品の加工・保蔵、流通、調理を経て人に摂取されるまでの過程における食品の安全性を確保することにある。食品衛生管理を実施するために必要となる食品衛生法規や食品衛生対策、食中毒の種類と予防法、食品添加物等について解説する。					
到達目標	① 食品の様々なリスクに関する知識を持つことができる。 ② 食中毒予防に必要な基礎知識や技能を習得する。					
回	学習内容					
1	食品衛生学概要、食品衛生行政と食品衛生関連法規					
2	食品と微生物					
3	食品成分の変質と予防、大量調理施設衛生管理マニュアル					
4	食中毒の概要					
5	細菌性食中毒（1）サルモネラ、カンピロバクター等					
6	細菌性食中毒（2）ボツリヌス菌、黄色ブドウ球菌等					
7	細菌性食中毒（3）腸炎ビブリオ、その他					
8	ウイルス性食中毒					
9	経口感染症、寄生虫症					
10	自然毒食中毒					
11	有害物質による食品汚染					
12	食品添加物					
13	食品の器具・容器包装と洗浄					
14	食品衛生対策					
15	食品の安全性、食品衛生学まとめ					
予習内容 復習内容	予習：当該箇所に関連する教科書を読み、当該実験の内容を予習する。 復習：授業内に配付した資料とあわせ、当日の講義内容を理解する。					
教科書	栄養科学シリーズ NEXT 食べ物と健康、食品と衛生 食品衛生学第4版 植木幸英・野村秀一編 講談社					
成績評価	平常点 20%、授業内小テスト 40%、期末試験 40%で成績評価を行う。平常点は、出席や提出物を総合的に評価する。					
実務経験	栄養士・管理栄養士として病院に勤務経験があります。実務経験を活かし、食品の衛生管理に係る実践的な知識・技術の修得に結び付くように講義でお伝えしたいと思います。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食品衛生学実験	飯田 津喜美	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食品衛生学の講義の理解を深めるため、飲料水の水質、食器洗浄の検査等その他食品の衛生に関する実験を行い学んだ知識の実践を行う。また、実験の基礎から始め、実験を安全に行うために必要な知識や基本的操作方法を習得する。実験内容をよく理解して結果を考察し、実験レポートにまとめることにより、食品衛生学の知識と技術を結びつけ定着させることを目的とする。					
到達目標	① 実験の基礎知識や技術を身につける。 ② 実験を通して、栄養士として活躍するうえで必要な食品衛生の基礎知識を習得する。 ③ 一緒に実験する班員と協力し合い、実験を遂行できる。					
回	学習内容					
1	実験の基礎					
2	飲料水の水質検査					
3	食器洗浄の検査					
4	合成洗剤の残留検査					
5	油脂酸敗検査					
6	食品汚染物質の分析					
7	食品の鮮度実験					
8	合成着色料の分析					
9	微生物実験の基本操作					
10	手洗いの洗浄前後の手指の付着菌検査					
11	細菌検査					
12	野菜の次亜塩素酸ナトリウムによる殺菌実験					
13	ノロウイルス対策					
14	容器包装殺菌実習					
15	食品衛生学実験のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：当該箇所に関連する教科書を読み、当該実験の内容を予習する。 復習：実験結果をまとめ、当該事項について理解する。					
教科書	改訂 基礎からの食品・栄養学実験 建帛社、実験資料の配付					
成績評価	平常点 30%、実験に取り組む意欲・態度 20%、レポート 50%で成績評価を行う。平常点は出席や授業中の提出物等により評価する。					
実務経験	栄養士・管理栄養士として病院に勤務経験があります。実務経験を活かし、食品の衛生管理に係る実践的な知識・技術の修得に結び付くように講義でお伝えしたいと思います。					
その他 特記事項	教室の都合等により内容順を変更することがあります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
栄養学	杉野 香江	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	「栄養とは何か」ということを理解し、各栄養素の科学的性質や機能、栄養的意義について学ぶ。さらに各栄養素の消化・吸収、代謝、利用についての知識を習得することを目的とする。その基盤としては、すでに解剖生理学、生化学などの学習において体の基本的構造や機能、代謝の仕組みを理解していることが前提となる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 炭水化物、脂質、たんぱく質の消化・吸収・代謝の概要について説明できる。 2. 栄養素の機能および栄養学的意義について説明できる。 3. 栄養素の過剰と欠乏の影響について説明できる。 4. 水・電解質の体内利用およびエネルギー代謝についての基本事項を理解できる。 					
回	学習内容					
1	栄養の概念と栄養学の歴史					
2	摂食行動（空腹感、食欲）					
3	消化・吸収と栄養素の体内動態① 管腔内消化と膜消化					
4	消化・吸収と栄養素の体内動態② 栄養素別の消化吸收過程					
5	炭水化物の栄養① 炭水化物の分類と栄養学的特徴					
6	炭水化物の栄養② 糖質の体内代謝と血糖値の調節					
7	脂質の栄養① 脂質の種類とはたらき					
8	脂質の栄養② 脂質の体内代謝					
9	たんぱく質の栄養① 体たんぱく質の合成と分解					
10	たんぱく質の栄養② 食品たんぱく質の栄養価の評価法					
11	ビタミンの栄養① 脂溶性ビタミンの機能					
12	ビタミンの栄養② 水溶性ビタミンの機能					
13	ミネラルの栄養と機能					
14	水・電解質の栄養学的意義					
15	エネルギー代謝					
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当頁を熟読する。 復習：教科書、講義資料により講義内容の確認を行う。					
教科書	教科書：栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第4版/羊土社					
成績評価	2回の小テスト（60%）と定期試験（40%）によって評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
栄養学実験	杉野 香江	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養学で学んだ事項について、実験的手法を用いて理解を深め、実験結果を論理的に考察する能力を養うことを目的とする。</p> <p>三大栄養素の消化について各栄養素に対する消化酵素の働きを実験で確認する。食事の違いにより、血糖値や尿中成分が変化することについての理解を深める。各自が自分のエネルギー消費量を理解することで、対象者の必要エネルギーを理解し、個人や集団の食事計画ができる能力を養う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な実験の手法を習得する。 2. 消化のしくみ、各栄養素の体内における働きを説明できる。 3. エネルギー消費量の算出方法、栄養管理で用いる栄養評価方法について説明できる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、実験の基本操作					
2	脂質の消化					
3	炭水化物の消化					
4	たんぱく質の消化					
5	血糖値の測定①（随時血糖値の測定）					
6	血糖値の測定②（糖質中心の食事による血糖値の変化）					
7	血糖値の測定③（脂質中心の食事による血糖値の変化）					
8	過食が肝臓脂質に及ぼす影響					
9	たんぱく質の補足効果（アミノ酸スコアの計算）					
10	食事と尿に関する実験①（尿中尿素の測定）					
11	食事と尿に関する実験②（尿中クレアチニンの測定）					
12	食事と尿に関する実験③（食事記録の解析）					
13	食事と尿に関する実験④（尿中食塩濃度の測定）					
14	活動時エネルギー消費量の算出					
15	総括、器具の管理					
予習内容 復習内容	<p>予習：配布資料を確認し、関連事項について学習する。</p> <p>復習：実験結果を見直し、関連事項について学習する。</p>					
教科書	実験資料を配布する。					
成績評価	実験に積極的に取り組む姿勢（40%）とレポート（60%）によって評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
応用栄養学 I	杉野 香江	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	ヒトの一生のライフステージに見合った食物摂取は健康の保持・増進に重要である。また、同じライフステージでも個人差があり、身体状況や身体活動量によっても栄養管理は異なってくる。本講義は、成長・発達・加齢に伴う生体の変化と特性を理解し、各ライフステージにおける栄養とその管理方法の基本を習得することを目的とする。					
到達目標	各ライフステージの生理的・身体的特徴を理解し、栄養アセスメントおよび栄養ケアについて説明することができる。					
回	学習内容					
1	成長・発達・加齢の概念					
2	妊娠期の生理的・身体的特徴					
3	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケア					
4	授乳期の生理的・身体的特徴					
5	授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア					
6	新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴					
7	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア					
8	母乳栄養・人工栄養および離乳の支援					
9	幼児期の生理的・身体的特徴および食生活の特徴と栄養ケア					
10	学童期の生理的・身体的特徴および食生活の特徴と栄養ケア					
11	思春期期の生理的・身体的特徴および食生活の特徴と栄養ケア					
12	成人期の生理的・身体的特徴および食生活の特徴					
13	生活習慣病発症予防のための栄養管理					
14	高齢期の生理的・身体的特徴および食生活の特徴					
15	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア					
予習内容	予習：教科書の該当頁を熟読する。					
復習内容	復習：教科書、講義資料により講義内容の確認を行う。					
教科書	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 栢下 淳, 上西一弘／編 羊土社					
成績評価	小テスト（100％）によって評価する。小テストは講義の中で3回実施する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
応用栄養学Ⅱ	杉野 香江	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	ヒトのライフステージに見合った食物摂取は、健康の保持・増進に重要である。また、同じライフステージでも個人差があり、身体状況、運動や労働の程度によっても栄養管理の方法は異なってくる。応用栄養学Ⅱは、個人の身体活動や環境に応じた栄養管理について理解することを目的とし、「食事摂取基準の基礎的理解」、「運動・スポーツと栄養」、「環境と栄養」の3部構成で講義を進める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事摂取基準の基本および活用方法について説明できる。 2. 運動時や特殊環境下における代謝および必要な栄養素の変化について理解し、栄養管理方法を説明できる。 					
回	学習内容					
1	食事摂取基準の意義 -目的と基本指針-					
2	食事摂取基準の基礎理論 -各指標の定義-					
3	食事摂取基準活用の基礎理論					
4	エネルギー・栄養素別食事摂取基準					
5	食事摂取基準のまとめ					
6	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝					
7	運動と栄養ケア					
8	運動時の食事内容と摂取タイミング					
9	ライフステージ別の運動と栄養					
10	運動・スポーツと栄養のまとめ					
11	ストレス応答と栄養					
12	特殊環境（高温・低温環境）と栄養					
13	特殊環境（高圧・低圧環境、無重力環境）と栄養					
14	災害時における栄養管理					
15	特殊環境と栄養のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当頁を熟読する。 復習：教科書、講義資料により講義内容の確認を行う。					
教科書	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 栢下 淳, 上西一弘／編 羊土社					
成績評価	小テスト（100％）によって評価する。小テストは講義の中で3回実施する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
応用栄養学実習	杉野 香江	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>応用栄養学Ⅰ・Ⅱで習得した知識を基に、各ライフステージの食事の管理を中心とした栄養管理能力を養うことを目的とする。具体的には、各ライフステージや個人に合わせた食事計画、献立作成、調理、評価方法、さらに運動時の栄養管理について学ぶ。本実習を通して、栄養士に必要な栄養管理・栄養教育・給食管理に生かすことができる技術の習得を目指す。</p>					
到達目標	<p>各ライフステージや個人に合わせた食事計画、献立作成、調理、栄養評価の知識と技術を習得することを到達目標とする。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・妊娠期のアセスメントと食事計画					
2	妊娠期の食事計画					
3	妊娠期の食事の調理					
4	調乳について					
5	離乳食の進め方と調理					
6	幼児期の食事計画とアレルギー対応食					
7	幼児期・アレルギー対応の食事の調理					
8	学童期（学校給食）の食事計画					
9	学童期の食事の調理					
10	成人期の食事計画と調理					
11	高齢期の食事計画					
12	高齢期の食事調理					
13	嚥下機能低下に対応した食事の調理					
14	スポーツ選手の栄養アセスメント					
15	まとめ・器具の管理					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当頁を確認し、関連事項について学習する。 復習：実習内容を振り返り、改善点等について考察し理解を深める。</p>					
教科書	<p>栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 栢下 淳，上西一弘／編 羊土社 実習で使用する資料は適宜配布する。</p>					
成績評価	<p>実習に積極的に取り組む姿勢（40%）、レポート（60%）により評価する。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>班単位での学修が中心となるため、極力遅刻・欠席をしないよう、心掛けてください。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
臨床栄養学	石橋 智奈美	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	臨床分野における栄養マネジメント業務を遂行していく上で、疾病の成り立ちを理解することは不可欠です。近年の医療制度の変化は著しく、臨床分野の栄養業務は大きく変化しています。傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を理解し、医療・介護制度や医療チームにおける栄養管理の役割を学習することが目的です。また、疾病の症状を改善させるために、病態と栄養状態の的確な評価も学習します。臨床栄養を実践的(実習など)に展開していく上で基礎となる科目です。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床栄養学の基礎となる知識を習得し、実習に応用できる力を身につける。 2 栄養状態を把握し、適切な食事の提供・食事の摂り方を対象者に助言できる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、臨床栄養学の概念					
2	栄養食事療法・栄養補給法					
3	消化器疾患の病態生理と栄養食事療法					
4	糖尿病の病態生理 糖尿病の病因、合併症					
5	糖尿病の治療の意義と栄養食事療法					
6	脂質代謝異常症、肥満症の病態生理					
7	脂質代謝異常症、肥満症の栄養食事療法					
8	肝臓、胆嚢、膵臓疾患の病態生理と栄養食事療法 小テスト					
9	循環器疾患(高血圧・動脈硬化など)の病態生理と栄養食事療法					
10	腎臓疾患(腎不全・慢性腎臓病)の病態生理					
11	腎臓疾患(ネフローゼ症候群・糖尿病腎症・透析)の病態生理					
12	腎臓疾患の栄養食事療法					
13	筋・骨格系疾患の病態生理と食事療法					
14	免疫・アレルギー疾患の概要と栄養食事療法					
15	摂食機能低下の概要と栄養食事療法					
予習内容 復習内容	予習：教科書の各回の学習内容に相当する範囲に目を通す等 復習：講義内容を整理し、臨床栄養学実習に臨む際の理解を深める。					
教科書	友竹浩之・塚原丘美編「臨床栄養学概論」講談社					
成績評価	出席時に提出するレポート(15%)、小テスト(30%)、試験(55%)により評価します。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験	医療法人に管理栄養士として勤務し、入院時食事療養、入院患者の栄養管理業務に従事しています。 実務経験を活かし、病態に適応した栄養管理に必要な専門知識を習得できるように努めます。					
その他 特記事項	病気の成り立ちと栄養食事療法などについて解説しますが、講義時間内では、すべては網羅できないため、予習・復習が必須です。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
臨床栄養学実習	石橋 智奈美	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	臨床栄養学で学習した理論を基礎に、病態や栄養状態の特徴に基づいて個人に対応する適切な栄養ケアの計画と実施、食事療法及び栄養補給が実施できる実践的な能力を培います。治療食をプログラムし、提供する側にたち、よりよい治療食と食事療法の在り方の基本を学びます。またエビデンスから得られた治療を展開する責務を担う栄養サポートの一員としての知識とスキルを高める実習を行います。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 疾病別・栄養成分別分類に則した献立が計画できる。 2 展開食の理解を深め、より実践的な献立作成ができる。 3 糖尿病や腎臓病の食事療法のツールが使いこなせるようになる。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション 栄養ケアの概要 展開食					
2	栄養ケアの基礎 流動食・軟食・常食					
3	易消化食 胃腸疾患の栄養ケア 経口・経腸栄養剤					
4	エネルギーコントロール食 低エネルギー食・高エネルギー食					
5	エネルギーコントロール食 糖尿病食品交換表の理解と使用法					
6	エネルギーコントロール食 糖尿病献立作成					
7	たんぱく質コントロール食 腎臓病食品交換表の理解と使用法 糖尿病献立修正					
8	たんぱく質コントロール食 腎臓病の献立作成（食塩制限）					
9	糖尿病献立調理実習 腎臓病献立修正					
10	腎臓病献立調理実習 治療用特殊食品					
11	脂質コントロール食 脂質異常症・膵臓疾患の理解					
12	脂質コントロール食 脂質異常症の献立作成					
13	食物アレルギー献立の調理実習 脂質異常症献立修正					
14	脂質異常症の調理実習					
15	その他の治療食について					
予習内容 復習内容	予習：教科書の各回の学習内容に相当する範囲に目を通す等。 復習：講義時配布の印刷物を整理し、理解を深める。					
教科書	今井佐恵子・富安広幸編 「臨床栄養学実習書」 医歯薬出版(株) 日本糖尿病学会編・著 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂 黒川清監修 中尾俊之他編 「腎臓病食品交換表」 医歯薬出版(株)					
成績評価	積極的に取り組む姿勢・受講態度(10%)、課題に対するレポート(40%)、試験(50%)から評価します。6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験	医療法人に管理栄養士として勤務し、入院時食事療養、入院患者の栄養管理業務に従事しています。実務経験を活かし、病態別・栄養素別献立作成を中心に講義します。					
その他 特記事項	献立作成にあたり、食品の選択が求められます。食品成分表などから目的に合った食品が選択できるように、食品の特徴などを理解しておきましょう。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
栄養教育論	阿部 稚里	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養教育とは、対象とする個人や集団の Quality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために具体的に働きかけることである。そこで本講義では、対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、健康や QOL の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法を学び、方法論を提案できる知識を得ることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①栄養教育が健康政策の中心的な課題であることを説明することができる。 ②栄養教育に必要な行動科学理論やカウンセリング論を理解することができる。 ③健康や QOL の向上を目標とする栄養教育を提案することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、栄養教育の概念					
2	栄養教育・栄養指導の歴史、栄養教育の対象と機会					
3	栄養教育の目的・目標、最近の栄養教育に関する法的根拠					
4	国民健康・栄養調査からみた健康づくり対策と栄養教育の提案					
5	健康日本 21 からみた健康づくり対策と栄養教育の提案					
6	行動科学理論の概要					
7	行動科学理論：刺激-反応理論等					
8	行動科学理論とモデル：プリシード・プロシードモデル等					
9	栄養相談の基本					
10	行動科学理論の栄養教育への応用例					
11	栄養教育マネジメントの概要					
12	栄養アセスメントの種類とその特徴					
13	栄養教育の目標設定、栄養教育計画作成の基本的な手順					
14	学習形態の種類とその特徴					
15	栄養教育の実施・評価方法					
予習内容 復習内容	<p>予習：該当箇所の教科書を事前に読み、重要事項をまとめる。 復習：学んだ内容について、栄養士としてのアプローチ方法を考察する。</p>					
教科書	「栄養教育論—栄養の指導—」 関口紀子、蕨迫栄美子編 学建書院					
成績評価	毎回の授業内小レポート 15%、3 回のレポート 60%、試験 25%					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
栄養指導論	阿部 稚里	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養指導論では、各ライフステージ別の栄養指導方法を学ぶ。対象者に対応した栄養指導プログラムの作成、実施、評価を総合的にマネジメントできる能力を身に付けることを目標に、行動科学やカウンセリングなどの理論を応用して身体的、精神的、社会的状況、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養指導のあり方と方法論について理解を深めることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①各ライフステージ別の栄養指導方法論について説明ができる。 ②各ライフステージ別の栄養指導について提案することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、栄養指導の概要					
2	妊娠期の食生活全般に対する栄養指導方法					
3	妊娠期特有の問題に対する栄養指導方法					
4	授乳期の食生活全般に対する栄養指導方法					
5	乳児期に対応した栄養指導方法					
6	幼児期に対応した栄養指導方法					
7	学童期前半に対応した食に関する指導方法					
8	学童期後半に対応した食に関する指導方法					
9	思春期に対応した栄養指導方法					
10	成人期前半の食生活全般に対する栄養指導方法					
11	成人期後半の食生活全般に対する栄養指導方法					
12	成人期の勤務状況別保健指導に対応した栄養指導方法					
13	高齢期の食生活全般に対する栄養指導方法					
14	高齢期特有の問題に対する栄養指導方法					
15	各ライフステージの栄養指導例					
予習内容 復習内容	<p>予習：該当箇所の教科書を事前に読み、重要事項をまとめる。 復習：学んだ内容について、栄養士としてのアプローチ方法を考察する。</p>					
教科書	「栄養教育論—栄養の指導—」 関口紀子、蕨迫栄美子編 学建書院					
成績評価	毎回の授業内小レポート 15%、2回のレポート 60%、試験 25%					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
栄養教育論実習	阿部 稚里	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養教育論実習では1年次に学んだ栄養教育論の内容を発展させ、特に個人の食行動を変容させる栄養教育について行動科学理論を応用しながら主体的に実践する能力を身に付ける。個人に合わせた栄養相談の内容を考えて実践し、受講生同士でディスカッションしてよりよい栄養教育を考察することを授業目的とする。</p>					
到達目標	<p>①栄養教育に必要な行動科学理論を実践することができる。 ②個人の食行動に合わせた栄養教育方法を提案することができる。 ③対象者に合わせた栄養教育の教材を提案することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、栄養カウンセリングの概念					
2	ロールプレイング・質問方法の実践					
3	ストレスマネジメント・認知行動療法の実践					
4	動機づけ面接の実践					
5	栄養相談の練習					
6	栄養相談の実施					
7	身体状況に関する栄養アセスメント					
8	食生活状況に関する栄養アセスメント					
9	個人に対する栄養教育案の作成					
10	個人に対する栄養教育教材の作成					
11	個人に対する栄養教育発表の準備					
12	個人に対する栄養教育のリハーサル					
13	個人に対する栄養教育の実施					
14	個人に対する栄養教育の討論					
15	個人に対する栄養教育教材の評価、望ましい栄養教育方法についての考察					
予習内容 復習内容	<p>予習：1年次の栄養教育論の教科書、資料を事前に読み、重要事項をまとめる。 復習：学んだ内容について、栄養士としてのアプローチ方法を考察する。</p>					
教科書	教科書は指定しない。資料は実習中に配布する。					
成績評価	発表など積極的な態度 15%、栄養相談の評価（レポートを含む）30%、アセスメントに関するレポート 15%、栄養教育実施の評価（レポートを含む）30%、栄養教育教材の評価 10%					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
栄養指導論実習	阿部 稚里	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養指導論実習では1年次に学んだ栄養指導論の内容を発展させ、各ライフステージ別の問題に対応した栄養指導について企画し、実践する能力を身に付ける。受講生同士でディスカッションして各ライフステージの食に関する問題点を理解し、よりよい栄養指導方法を考察することを授業目的とする。</p>					
到達目標	<p>①各ライフステージに必要な栄養指導を企画し、他者に提案することができる。 ②各ライフステージに必要な栄養指導を実践することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、各ライフステージ別の栄養指導の特徴					
2	ライフステージ別食に関する基本事項の収集・まとめ					
3	ライフステージ別栄養指導案作成					
4	ライフステージ別栄養指導案の提出、討論					
5	ライフステージ別栄養指導のプレゼンテーション案作成					
6	ライフステージ別栄養指導のプレゼンテーションスライド作成					
7	ライフステージ別栄養指導のプレゼンテーション音声作成					
8	ライフステージ別栄養指導のプレゼンテーションの提出、討論					
9	ライフステージ別栄養指導のプレゼンテーションの評価					
10	ライフステージ別栄養指導の教材作成					
11	ライフステージ別栄養指導の発表準備					
12	ライフステージ別栄養指導のリハーサル、修正					
13	ライフステージ別栄養指導の評価：前半の学生発表					
14	ライフステージ別栄養指導の評価：後半の学生発表					
15	ライフステージ別栄養指導内容の討論、考察					
予習内容 復習内容	<p>予習：1年次の栄養指導論の教科書、資料を事前に読み、重要事項をまとめる。 復習：学んだ内容について、栄養士としてのアプローチ方法を考察する。</p>					
教科書	教科書は指定しない。資料は実習中に配布する。					
成績評価	発言など積極的に取り組む姿勢 15%、栄養指導案 20%、プレゼンテーション評価 30%、栄養指導の発表の評価 35%					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
公衆栄養学	大槻 誠	講義	2	栄養士必修	1, 2, 3	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	今後、少子・高齢化の我が国において一次予防が重要視されてくる。また、目まぐるしく変化する社会情勢の中において、臨床や公衆の現場では常に傷病等に関わる背景などを観察しておかなければならない。公衆栄養学では公衆栄養活動の推進と少子・高齢化社会の現状に対応できる知識を深め、公衆栄養の果たす役割とその実態および重要性について学ぶ。また、栄養行政における関連法規を学び、望ましい公衆栄養の方向性を習得する。さらに、三重県内のあらゆる人々の個人または集団に対して、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成、実施、評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を習得する。					
到達目標	我が国や三重県の健康問題を衛生指標や栄養疫学など交えて考え、人々の健康と QOL の向上のために必要な幅広い知識を習得し、地域社会だけではなく諸外国の健康・栄養問題を見渡し柔軟にアプローチできる知識を身につけさせることが目標である。					
回	学習内容					
1	公衆栄養の概念、公衆栄養活動の基本と展開過程					
2	健康状態の変化、食事の変化、食生活の変化：食行動・食態度・食知識					
3	食環境の変化、諸外国の健康・栄養問題の現状					
4	わが国の公衆栄養活動と関連法規、管理栄養士・栄養士制度と職業倫理					
5	国民健康・栄養調査、実施に関する指針、ツール					
6	わが国の健康増進基本方針と地方計画					
7	諸外国の健康・栄養政策					
8	栄養疫学の概要、栄養疫学の指標					
9	栄養疫学の方法、栄養疫学のための食事調査法					
10	食事摂取量の測定方法、食事摂取量の評価方法					
11	公衆栄養マネジメントの概念とプロセス					
12	公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラムの目標設定					
13	公衆栄養プログラムの計画、公衆栄養プログラムの実施、公衆栄養プログラムの評価					
14	地域特性に対応したプログラムの展開、食環境整備のためのプログラムの展開、地域集団の特性別プログラムの展開					
15	公衆栄養の歴史					
予習内容 復習内容	予習：教科書を通読する。必要に応じて関連する参考図書に目を通して予習する。 復習：教科書の該当部分および講義ノートを復習し、重要な語句などをノートに整理する。					
教科書	教科書「公衆栄養学 改訂第7版」吉池信男/林 宏一 編集（南江堂）3,300円					
成績評価	試験 80%、小テスト（課題の場合もあり）20%。					
実務経験						
その他 特記事項	欠席は5回までとし、6回以上の欠席者は正当な理由がない限り評価の対象外となります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
給食運営管理論	駒田 亜衣	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養士の活動は給食施設での食事提供が主であり、その中で喫食者の健康の保持・増進に寄与してきた。現代の社会構造の変化、個人生活の多様化にともなう社会情勢は、給食の役割とその必要性を増加させ、給食施設においては、ますます科学的・合理的な管理が要求されることとなった。そのため、栄養士は給食現場において、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントをおこなう能力を身につけなければならない。</p> <p>本講義では、給食における運営管理業務を適切に達成するための基本的知識を修得することを目的として実施する。</p>					
到達目標	<p>①給食運営業務を適切に達成するための食事の計画ができること ②給食提供時の安全管理・衛生管理・食環境の整備ができること ③給食の関係法規を理解すること</p>					
回	学習内容					
1	給食の概念（給食の概要・給食システム）					
2	給食の概念（給食施設の特徴と栄養士の役割・関係法規）					
3	給食運営・管理の概念（給食の資源と管理・給食の外部委託・給食とマーケティング）					
4	給食運営・管理の概念（給食組織・給食従事者の教育と訓練）					
5	栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）					
6	栄養・食事管理（食事の計画）					
7	栄養・食事管理（食事計画の実施・評価・改善）					
8	給食における品質管理（給食の品質基準と献立の標準化・大量調理の特性と品質）					
9	給食における品質管理（食材料の選択・発注と検収・保管と在庫管理）					
10	給食における生産管理（調理工程・作業工程・調理作業の標準化・人員配置）					
11	給食における提供サービス（配食と配膳のシステム・食事環境の設備）					
12	給食の安全・衛生（危機管理対策・インシデントとアクシデント）					
13	給食の安全・衛生（HACCP システムの運用、衛生教育）					
14	給食の安全・衛生（大量調理施設衛生管理マニュアル）					
15	給食施設の事後・災害対策（災害時のための貯蔵と献立）					
予習内容 復習内容	<p>予習：次回の内容についてテキストに目を通す、講義中に示す参考資料に目を通す等 復習：授業の内容をノートに整理し、考察メモを書き込む等</p>					
教科書	富岡和夫編、「栄養士養成のための『給食の運営 給食計画・実務論』」医歯薬出版株式会社					
成績評価	試験（60％）、平常点（40％）で評価する。平常点は課題レポート、出席時に提出するレポート内容、授業態度等を総合的に評価する。					
実務経験	病院で栄養士・管理栄養士として勤務していました。実務経験を活かし、実践的な給食の運営と栄養管理に必要な知識・技術が修得できるよう努めます。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
給食運営管理論実習 I	駒田 亜衣	実習	2	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>本実習は、栄養士の校外実習に先立って行われる給食実務に関する学内での大量調理実習である。これまでに学んだ「栄養学」「調理学」「食品衛生学」「栄養教育」などの基礎知識をもとに、実務的な内容を含む「給食運営管理論」の知識を生かし、大量調理を目的とする給食運営の手順、方法などの運営管理業務全般について、実習を通して修得する。</p> <p>本実習では、学生自らが計画を立て、各自が分担された作業を確実に果たしていかなければならないため、協力と責任の重要性を身につけることも目的とし、グループに分かれて実習を行う。</p>					
到達目標	<p>① これまでに学んだ専門科目の基礎知識をもとに、給食運営の方法や手順を修得する。</p> <p>② 大量調理を目的とした食事計画を自ら立て、集団で協力して給食提供ができる。</p> <p>③ 校外実習に向けた問題点や課題を明らかにし、解決方法を見出すことができる。</p>					
回	学習内容					
1	給食運営実習の概要・オリエンテーション、給与栄養目標量の決定					
2	献立作成と発注、帳票類作成					
3	大量調理基礎実習 1 / 献立計画、栄養価計算					
4	作成した献立の検討、栄養価計算 / 大量調理基礎実習 2					
5	本実習に向けた献立の決定、帳票類作成、作業分担の確認					
6	大量調理実習 A 試作 / 原価計算、栄養価計算等					
7	発注書作成、発注、検収記録簿作成等 / 大量調理実習 B 試作					
8	衛生管理チェック表、作業工程表作成等 / 大量調理実習 C 試作					
9	栄養メモ、喫食調査票、食券作成等 / 大量調理実習 D 試作、					
10	大量調理実習 A / 給食に関する必要帳票類の作成、調理作業に必要な器具・食器の準備					
11	給食実習ノートの整理・評価報告会の準備 / 大量調理実習 B					
12	インシデントレポートの作成・給食実習ノートの整理 / 大量調理実習 C					
13	実施した喫食調査票の集計と考察・給食実習ノートの整理 / 大量調理実習 D					
14	帳票類のまとめ（実施原価の計算、廃棄率調査の考察等）・給食実習ノートの整理					
15	実習の評価報告会					
予習内容 復習内容	予習：「給食運営管理論」で使用した教科書に目を通す等 復習：給食ノートの整理等					
教科書	・松月弘恵ら著 「給食マネジメント実習」 医歯薬出版					
成績評価	課題レポート・実習ノート（60%）、実習に取り組む態度や熱意・グループ作業の分担状況や成果（40%）で評価する。					
実務経験	病院で栄養士・管理栄養士として勤務していました。実務経験を活かし、実践的な給食の運営と栄養管理に必要な知識・技術が修得できるよう努めます。					
その他 特記事項	本実習は校外実習に準じる校内実習であるため、校外実習の受講年度に受講しなければならない。また校外実習と同様、遅刻や欠席の場合は単位を認められず、やむを得ない場合は補講を受けなければならない。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
給食運営管理論実習Ⅱ	阿部・駒田	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>栄養士の資格取得に必要な「給食運営管理論実習Ⅲ（校外実習）」を受講する学生に対して、校外実習に出る前の事前指導を前期に、校外実習終了後の事後教育を後期に行う。</p> <p>特定給食施設の職域ごとの栄養士の講演を予定している他、受講生は実習施設や実習グループごとに課題検討、手続き等の準備を行い、校外実習に臨む。</p> <p>実習後は、実習評価と反省、校外実習報告会を実施する。</p>					
到達目標	<p>校外実習に向けて給食運営上必要な知識と技術を習得し、校外実習を有意義なものとするのを到達目標とする。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・校外実習の概要					
2	校外実習中や事前挨拶時の諸注意・前年度の実習確認					
3	実習中の課題研究の確認					
4	自身の研究課題案作成					
5	課題研究への取り組み					
6	栄養士業務について（病院栄養士の仕事）					
7	栄養士業務について（福祉施設栄養士の仕事）					
8	課題研究の作成（試作含む）					
9	実習ノート整理					
10	実習報告会準備					
11	実習資料の整理					
12	校外実習報告会（病院）					
13	校外実習報告会（福祉施設）					
14	校外実習報告会（事業所）					
15	栄養士免許申請について					
予習内容 復習内容	<p>予習：授業中に示す資料に目を通す、課題研究に必要な資料収集等</p> <p>復習：実習ノートの整理等</p>					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の校外実習ノート ・これまで栄養士必修科目で使用した教科書など 					
成績評価	<p>課題レポート、課題研究、実習後の報告やまとめた資料（60%）、実習の準備に取り組む態度・意欲（40%）として評価する。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>校外実習を受講するものは必ずこの科目を受講しなければならない。</p> <p>校外実習を有意義なものとするために、実習施設ごとに準備のための計画を立てて実践する積極的な取り組みが必要である。その心構えを持って受講しなければならない。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
給食運営管理論実習Ⅲ	阿部・駒田	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>校外実習の目的は、給食業務を行なうために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得することである。また、栄養士や管理栄養士が配置されている学外の特定給食施設において、実際の給食運営や栄養管理業務を学び、さらに社会的責任を自覚する栄養士として成長するために行うものでもある。</p> <p>本科目は、校外実習として学外の施設（病院・社会福祉施設・事業所のうち一施設）において実習を行う。</p>					
到達目標	<p>各特定給食施設において担当栄養士の指導のもと、給食運営の実習体験を通して資質の向上を図るとともに勤労の精神や強い責任感を養うことを到達目標とする。</p>					
回	学習内容					
1	事前指導	実習の事前説明、準備物や研究課題についての指導				
2	実習 1 日目	施設見学、衛生教育、厨房業務説明、実習課題の提出と評価				
3	実習 2 日目	厨房業務（検収、調理、盛り付け、提供、食器洗浄 等）				
4	実習 3 日目	課題研究報告、厨房業務（調理、盛り付け、提供、厨房清掃 等）				
5	実習 4 日目	厨房業務（下処理、調理、盛り付け、提供 等）				
6	実習 5 日目	課題研究評価、厨房業務（発注、調理、盛り付け、喫食調査 等）				
7	事後報告	校外実習の反省会、報告会				
8	<p>※上記は校外実習の一例である。 実習先によって異なる場合がある為、変更があった場合はシラバス等を再配付する。</p>					
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
予習内容 復習内容	<p>予習：実習先から出された課題について調べておく等 復習：実習ノートの整理と考察メモを書き込む等</p>					
教科書	本学の「校外実習ノート」を配付する。					
成績評価	施設からの成績（100%）によって評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>校外実習においては、学内で事前事後評価を行なう体制を整えることが規定されている。本科目の受講者は、1年生時に開講された栄養士必修科目のすべての単位を取得するとともに、ある一定の評価基準に達しなければならない。さらに、校外実習は実習生としての謙虚な態度や意欲的に取り組む姿勢の他、社会人としての自覚が必要とされるため、そのことを自覚して受講しなければならない。</p> <p>校外実習に係る費用はオリエンテーション時に集金する他、別途交通費等の負担を要する場合がある。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
給食運営総合指導	生川 美江	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	本科目では、給食利用者に対して適切な食事を提供するために栄養士に必要な実践的知識について学びます。					
到達目標	<p>学生は、本授業を通して次のことができるようになることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主食、主菜、副菜の献立構成を理解し1料理、1食あたりの適量を把握できる。 ・日本食品成分表における食品の分類法、分析法を理解し食事計画に活用できる。 ・食品構成に基づいた食事計画を立案し、エネルギー産生栄養素バランスを指標とした献立の評価および改善を行うことができる。 ・調味パーセントを活用し、材料に対して適量の調味割合を再現（調味の標準化）できるための技術を習得したうえで利用者の嗜好性やニーズに合わせた献立を作成できる応用力を持つ。 					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、食事をする目的、献立の構成、献立の記載方法					
2	食事の摂り方、バランスの良い献立とは、日本食品成分表の使い方					
3	栄養価計算の実際、廃棄率と購入量の求め方					
4	献立作成のポイントと留意点、食品の分類と常用食品					
5	食品構成を活用した食品選択、食品の常用量					
6	食事摂取基準を活用したエネルギー摂取と栄養素のバランス、PFC バランス					
7	指定献立の栄養価計算と評価					
8	基本の調味1（汁物、味付きめし）					
9	基本の調味2（煮物、あえ物、酢の物、その他）					
10	食事摂取基準と食品構成に基づく昼食献立の作成（グループワーク）					
11	献立の評価と改善（グループワーク）					
12	献立の評価と改善（発表と意見交換）					
13	食事摂取基準と食品構成に基づく一日献立の作成					
14	献立の評価と改善					
15	まとめと練習問題					
予習内容 復習内容	<p>予習：授業は1回完結ではなく毎回の積み重ねによって献立作成に必要な技術の習得を目指すため、必ず前回の授業の振り返りをして出席する。</p> <p>復習：項目ごとにワークシートを配布するので授業内容を繰り返し学習して翌週の授業前に提出する。</p>					
教科書	<p>教科書：「日本食品成分表 2023」（医歯薬出版）</p> <p>配布物：資料、ワークシートをその都度配布する。</p>					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（50%）、定期試験（50%）で成績評価を行う。100点満点で、60点以上を合格とする。 ・毎回出席をとり、欠席回数が5回を超えた場合は評価対象外となる。 ・平常点は講義中に課す課題の成績で評価する。なお、欠席した場合は一定の基準で減点する。 					
実務経験	保健センターで管理栄養士として勤務していました。実務経験を活かし健康の保持・増進に寄与する食事の計画と実践に必要な知識・技術が修得できるよう努めます。					
その他 特記事項	<p>欠席・自己都合（遅刻・忘れなど）により課題の受け取りや提出ができなかった場合の対処は、自己責任とします（翌週の授業開始までに申し出があれば対応し配点します。但し、一定の減点を行います）。</p> <p>病気等により複数回の欠席や出席停止となった場合などは配慮しますので、届け出てください。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
調理学	駒田 亜衣	講義	2	栄養士必修	1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>人間の身体と心の健康のために「どのような食生活が望ましいのか」を考える食事設計の基礎知識として、食べ物の味を感じるしくみ、料理の形態と栄養成分の変化、さらに個々の年代に対応する栄養条件やその食事摂取基準などを学ぶ。</p> <p>また、実際の調理操作、調理過程において生じる食品の栄養特性、物性の変化などについて科学的に捉え、安全性、栄養性、嗜好性を高める調理方法について理解する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養士として食事計画を立てる能力が身につくこと 2 食品の特性を踏まえた安全性・栄養性・嗜好性を高める調理方法を理解すること 3 おいしさに関する要因を知り、対象者に合った献立提案ができること 					
回	学習内容					
1	調理の意義と食事の計画・食事の形態・食事計画、献立作成					
2	食物の特性要因・食物のおいしさ（食べ物の特性要因／味・におい・外観）					
3	食物の特性要因・食物のおいしさ（食べ物の特性要因／テクスチャー・温度・音、食べ物以外の特性要因）					
4	調理操作と調理機器（大量調理機器含む）加熱調理機器					
5	調理操作と調理機器（大量調理機器含む）非加熱調理機器					
6	食品の成分と調理・植物性食品の調理（穀類（米）・いも類）					
7	食品の成分と調理・植物性食品の調理（穀類（小麦））					
8	食品の成分と調理・植物性食品の調理（大豆・その他豆類）					
9	食品の成分と調理・植物性食品の調理（野菜・きのこ・藻類）					
10	食品の成分と調理・動物性食品の調理（肉類・魚類）					
11	食品の成分と調理・動物性食品の調理（卵類・乳・乳製品）					
12	食品の成分と調理・成分抽出素材の調理（でんぷん・油脂・砂糖）					
13	食品の成分と調理・成分抽出素材の調理（ゲル化剤）					
14	調理と安全（調理と衛生管理）					
15	調理と安全（食品の衛生的な保管・食品の安全性）					
予習内容 復習内容	<p>予習：次回の内容についてテキストに目を通す、講義中に示す食材の栄養価に目を通す等</p> <p>復習：授業の内容をノートに整理し、考察メモを書き込む等</p>					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本食品成分表 2023（八訂）」 医歯薬出版株式会社 ・渋川祥子ら著 「エスカパーシク 食べ物と健康—調理学—」 同文書院 					
成績評価	<p>・試験（60%）、平常点（40%）で評価する。平常点は出席時に提出する課題レポート、授業態度等を総合的に評価する。</p>					
実務経験	<p>病院で栄養士・管理栄養士として勤務していました。実務経験を活かし、献立作成の手順、栄養士としての食事計画が立てられる能力を修得できるよう努めます。</p>					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
調理学実習 I	五島 景子	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	調理の意義を理解し、調理の基礎技術・基礎調理操作を習得することを目的とする。 実習を通じて、調理技術、調理器具の正しい取り扱い方法、旬の食材の知識や栄養価、嗜好性や安全性に配慮した調理等について、実践的に学ぶ。					
到達目標	1) 食材の特性を理解した上で、調理器具を正しく使用し、基礎的な調理技術が身に付くとともに適切な調理操作ができる。 2) 日本料理、西洋料理、中国料理の特徴と料理構成を理解し、食事を安全かつ衛生的に作るができる。 3) 料理をおいしく見せる盛り付けができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、実習室の利用について、包丁と器具類の扱い					
2	調理の基礎 計量、炊飯(白飯)、だしの取り方(にぼし)					
3	日本料理① 日本料理の概要、しょうゆ味の飯、だしの取り方(昆布・かつお節・混合)					
4	日本料理② 塩味の飯、だしの取り方(貝)、魚の扱い方					
5	日本料理③ 丼飯、野菜の切り方、和え物					
6	日本料理④ 魚の焼き物、卵の調理性(蒸し物)、野菜の煮物					
7	西洋料理① 西洋料理の概要、ポタージュ、サラダ(ドレッシング)、プディング					
8	西洋料理② カツレツ、サラダ(マヨネーズ)、ゼラチンの調理性					
9	日本料理⑤ 魚のおろし方と煮物、酢の物、卵の調理性(汁物)					
10	日本料理⑥ 魚の汁物、和え衣の種類、寒天の調理性					
11	中国料理① 中国料理の概要、溜菜、湯菜、拌菜					
12	西洋料理③ サンドイッチ、サラダ(ポーチドエッグ)、紅茶					
13	日本料理⑦ 麺、揚げ物、でんぷんの調理性、煎茶					
14	中国料理② 鹹点心(肉包子)、湯菜、拌菜、甜点心(牛奶豆腐)					
15	中国料理③ 鹹点心(涼麵)、まとめ					
予習内容 復習内容	予習：一週間前に実施献立を伝えるので、しっかりと予習して実習に臨むこと。 復習：実習のまとめのレポートを仕上げ、提出する。					
教科書	西堀すき江/編著、『食育に役立つ 調理学実習』建帛社					
成績評価	実習に積極的に取り組む姿勢 40%、実習のまとめのレポート 30%、最終レポート 30%で成績評価を行う。欠席回数が6回になった場合は評価対象外とする。					
実務経験	給食委託会社での勤務経験があります。実務経験をもとに、調理の基礎や調理技術のみならず、喫食者に安全で衛生的かつ美味しい食事を提供する技術についてお伝えします。					
その他 特記事項	班単位での実習となりますので、極力遅刻・欠席をしないよう心掛けてください。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず連絡をしてください。実習では班員と協力し合い、自主性をもって積極的に取り組んでください。実習前には実習内容について班員と打ち合わせを行い、臨んでください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
調理学実習Ⅱ	駒田 亜衣	実習	1	栄養士必修	1, 2, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	調理の理論に基づいた調理操作は、料理の栄養面、安全面、嗜好面を満たすものである。前期開講の「調理学実習Ⅰ」では、日本料理、西洋料理、中国料理の基本的な調理操作を学ぶ中で、正しい調理機器の使い方、食材の扱い方などを修得するとともに、食品の組み合わせなどを考慮した基本的な食事計画の作成について学んだ。本実習でも引き続きそれらを考慮し、加えて「給食運営管理論実習Ⅰ」に向けた大量調理の基礎も学ぶ。さらに、さまざまな条件を考慮した献立作成をおこない、その献立を調理して評価・考察することにより、満足度の高い献立作成ができる能力を身につける。					
到達目標	① 「調理学実習Ⅰ」「給食運営管理論実習Ⅰ」を考慮した基本的な調理操作が身につくこと ② 大量調理を想定した献立作成と調理の技術を修得すること ③ 作成した献立の栄養評価・考察・改善提案ができること					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・献立作成（西洋料理・スープ）、発注					
2	調理実習・西洋料理（ピラフ、ムニエル、スープ）					
3	献立作成（日本料理・焼き物付け合わせ、汁物）、発注					
4	調理実習・日本料理（鱈の松風焼、酢の物、汁物、果物の飾り切り）					
5	献立作成（中国料理・副菜、湯）、発注					
6	調理実習・中国料理（乾炸鶏塊、副菜、湯、桃酥）					
7	献立作成（西洋料理・ハンバーグ付け合わせ、スープ）、発注					
8	調理実習・西洋料理（ハンバーグ、付け合わせ、スープ）					
9	献立作成（中国料理・80～100kcal 副菜バイキング）、発注					
10	調理実習・中国料理（副菜バイキング、湯、ごま団子）					
11	調理実習・製菓（ロールケーキ）					
12	献立作成（西洋料理・サラダ、スープ）、発注					
13	調理実習・西洋料理（グラタン、サラダ、スープ、ゼリー）					
14	調理実習・日本料理（巻きずし、いなり寿司、副菜、汁物）					
15	実習のまとめ（実施献立の評価と考察、厨房施設の見学）					
予習内容 復習内容	予習：事前に配付した資料に目を通し、実習の作業内容（工程）を確認しておく 復習：実習の調理作業工程を確認し、実施献立の栄養価計算、栄養診断等					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・松本仲子（監修）「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大学出版部） ・「調理学実習Ⅰ」で使用した教科書を適宜参考にする。 ・実習で使用する献立等は毎回配付する。 					
成績評価	・課題レポート（60%）、平常点（40%）で評価する。平常点は実習態度、実習技術、出席時に確認する衛生管理状況を総合的に評価する。					
実務経験	病院で栄養士・管理栄養士として勤務していました。実務経験を活かし、給食の運営と栄養管理に必要な知識・技術が修得できるよう努めます。					
その他 特記事項	・「調理学」「調理学実習Ⅰ」を必ず受講していることとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学	金岩 稔	講義	2		1	2, 3
授業概要 授業目的	諸研究の読解やそれらを実際に行う上で必要な統計学を学ぶ上で必要な数学的な基礎知識を復習するとともに、基礎的な統計学の概念、特に統計モデルの構築の概念を説明する。					
到達目標	基礎的な統計学的解析手法の理解と、実際のデータを用いた解析手法の習得					
回	学習内容					
1	講義の概要説明。データ解析の目的。度数分布表とヒストグラム。					
2	相関と散布図。データの中心とばらつきの指標。					
3	標準化と共分散、相関係数。					
4	回帰直線					
5	データ発生メカニズム。母集団と標本。無作為抽出。					
6	事象の独立性と確率					
7	確率分布と確率変数。その平均と分散。					
8	コイン投げとベルヌーイ試行。2項分布。					
9	連続型確率変数。正規分布。					
10	確率変数の独立性と無作為標本の定義。					
11	標本平均と標本分散。母平均、母分散との関係。不偏性。					
12	標本平均の分布。点推定と区間推定。母平均の区間推定。					
13	母比率の推定					
14	統計的仮説検定と検定方式、有意水準、母比率の検定					
15	確認課題の説明					
予習内容 復習内容	予習：シラバスの内容を検索して、どのような内容か自分なりに調べておく。 復習：ノートの整理					
教科書	テキストは使用しない。					
成績評価	確認課題 70%、講義の受講態度 30%					
実務経験						
その他 特記事項	科学は物事を客観的に判断する道具であり、統計学はその中での物差しと言ってもよい道具です。最初、道具の使い方は難しく感じますが、普段から使い手になじむと使いやすくなるものです。なじむまで普段から統計学的な物事の見方を身に着けるため、当講義を受講していただければと思います。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
化学	山崎 賢二	講義	2		1	2, 3
授業概要 授業目的	「食」にたずさわる資格を取得するためには、多くの専門科目を学ばなければなりません。その基礎となる「化学」の知識を身につけることは必要不可欠です。食べ物に関する化学の知識を中心に、高校まで化学をあまり勉強してこなかった学生にも、わかりやすく親しみやすい講義を心がけます。					
到達目標	学生は、食べ物に関する化学の基礎知識を身に着けることができる。その到達度を測るために第 8 回に中間試験、第 15 回終了後に期末試験を行う。試験内容は章末問題を中心に出题し、百点法で 60 点以上の場合に目標の達成とする。					
回	学習内容					
1	第 1 章 食品の中身を見る① 原子、分子、イオン、電子配置					
2	第 1 章 食品の中身を見る② 化学結合、化学式					
3	第 2 章 食品中の原子、分子、イオンの重さ					
4	第 3 章 食品の状態とその変化① 物質の三態、気体の体積と圧力・温度の関係、溶液					
5	第 3 章 食品の状態とその変化② コロイド粒子、コロイド溶液					
6	第 4 章 食品とエネルギー 生体内の化学エネルギー					
7	第 5 章 食品内で起こる変化① 化学反応と化学反応式、酸と塩基、pH					
8	前半の振り返り、中間試験					
9	第 5 章 食品内で起こる変化② 酸化還元反応、化学反応と熱					
10	第 6 章 食品中の濃度を考える① パーセント濃度、モル濃度、グラム当量、規定濃度					
11	第 6 章 食品中の濃度を考える② 重量モル濃度、試薬の調製法					
12	第 7 章 食品中の有機化合物とその働き① 糖質、タンパク質、脂質					
13	第 7 章 食品中の有機化合物とその働き② 酵素、ビタミン、ホルモン					
14	第 8 章 食品中の無機化合物とその働き					
15	後半の振り返り、ビデオ学習「沈黙の春／レイチェル・カーソン」					
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す等。 復習：章末問題を解く等。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「わかる化学・知っておきたい食とくらしの基礎知識」 松井徳光・小野廣紀 著、化学同人 発行、ISBN 978-4-7598-0920-6 ・プリント「知っておきたい食べ物の話」(社)日本化学工業協会 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況把握のため、毎回食物に関するクイズや課題等を課します。 ・15 回の授業のうち中間試験を含む 10 回以上の出席者を評価の対象者とします。 ・出席確認の提出物 20%、中間試験点 40%、期末試験点 40%で評価します。 					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは各自で購入してください。 ・プリントは配布します。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
健康管理概論	相川 悠貴	講義	2		1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>健康管理概論は、健康を保持増進し、疾病や障害を予防することを目的とする公衆衛生学の領域のうち、特に社会・環境と健康との関係を取り扱う学問である。健康管理の基本的な理論や知識を体系的に学び、自身の健康管理能力を高めるとともに、行政の健康管理活動における役割を理解する。</p> <p>本講義では、社会制度、社会環境において、自身と他者の健康を管理するための力の獲得を目的とする。本講義では、公衆衛生学、公衆栄養学、応用栄養学、臨床病態学、臨床栄養学等の栄養士関連科目の知識の復習も組み込まれる。</p>					
到達目標	<p>①健康管理に関連する制度とその必要性を理解する。</p> <p>②ライフステージ別の健康管理制度の特徴と意義を理解する。</p>					
回	学習内容					
1	日本の健康管理制度					
2	環境衛生					
3	食品衛生					
4	妊婦と胎児の健康管理					
5	乳児の健康管理					
6	幼児の健康管理					
7	児童の健康管理					
8	生徒の健康管理					
9	学生の健康管理					
10	成人の健康管理 1：成人全般					
11	成人の健康管理 2：就業者					
12	高齢者の健康管理					
13	代謝疾患					
14	運動器疾患					
15	健康・栄養問題の現状					
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の次回学習内容範囲を読んでおく。</p> <p>復習：授業内で紹介した重要箇所の読み直しを行い、理解と記憶に努める。</p>					
教科書	「NEXT 社会・環境と健康 健康管理概論 第3版」、東あかね／關戸啓子／久保加織編、講談社。					
成績評価	毎回の授業内レポートの内容（100%）					
実務経験	保健所で衛生監視業務に従事した。実務経験を活かし、衛生業務の実態を理解させ、健康管理の力を向上させる。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
管理栄養特殊講義	担当教員	講義	2		1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>将来栄養士または管理栄養士として働く希望のある学生を対象とし、管理栄養士の国家試験問題や栄養士実力認定試験問題にも触れながら、栄養士免許必修科目のまとめを行う。ただ単に栄養士免許必修科目の復習を行うのではなく、学んだことの応用やディスカッションを行うため、これ以前の栄養士免許必修科目について、復習および予習ができていることを前提に講義を展開する。</p>					
到達目標	<p>①管理栄養士国家試験に合格するための基礎知識を得る。 ②栄養士として各科目の重要事項を説明することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、栄養士実力認定試験・管理栄養士国家試験の勉強の進め方について					
2	解剖・生理学					
3	生化学					
4	給食管理論					
5	食品学各論					
6	食品学総論					
7	栄養学総論					
8	臨床栄養学概論					
9	栄養学各論（応用栄養学）					
10	栄養士実力認定試験					
11	栄養指導論					
12	公衆衛生学					
13	調理学					
14	食品衛生学					
15	公衆栄養学概論					
予習内容 復習内容	<p>予習：該当する科目の教科書、資料を事前に読み、重要事項をまとめる。 復習：栄養士実力認定試験、管理栄養士国家試験の問題を解いて重要事項をまとめる。</p>					
教科書	2024年度版 栄養士実力認定試験過去問題集 全国栄養士養成施設協会 編 建帛社					
成績評価	各回の担当からの評価 50%、栄養士実力認定試験結果 50% 5回を超える欠席は評価対象外となる。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>受講生は実力認定試験の受験が必須である。 実力認定試験を受験したい学生は必ず受講すること。 実力認定試験の詳細についてはオリエンテーションで案内する。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	相川 悠貴	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>運動と栄養は、健康管理の主軸となる。その知識の獲得のため、本演習では、①スポーツ競技者に対する栄養教育の実践、②日常活動の身体負荷の研究、③ロングウォーキング（平面運動）と登山（上下運動）の身体的負荷の違いの研究、④エネルギー摂取制限と走運動の交互作用が筋・骨・消化器に及ぼす影響の研究の実践と、その前後学習を行う。</p> <p>本授業は、実践活動や前後学習を通して、運動栄養学、運動保健学、解剖生理学、応用栄養学、栄養教育論の知識と実践能力を獲得することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①スポーツ栄養サポートの計画立案と実践ができる。</p> <p>②運動生理学実験の実践と結果の考察ができる。</p> <p>③運動の知識を獲得し、日々の生活に組み込む能力を身に着ける。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	全体計画の説明、研究倫理講習	16	登山練習：階段			
2	実験機器説明、ウォーキング	17	スポーツ栄養サポート：秋季栄養レター作成			
3	スポーツ栄養サポート：春季栄養レター作成	18	スポーツ栄養サポート：秋季調査準備			
4	スポーツ栄養サポート：春季調査準備	19	スポーツ栄養サポート：秋季解析			
5	スポーツ栄養サポート：春季解析	20	運動：球技			
6	運動：ラケットスポーツ	21	運動栄養学研究文献学習：調査研究			
7	運動栄養学研究方法学習：横断調査の解析	22	運動栄養学研究文献学習：介入研究			
8	運動栄養学研究方法学習：縦断調査の解析	23	ロングウォーキング研究：準備			
9	登山練習：低山	24	ロングウォーキング研究：実践			
10	骨の測定準備	25	ロングウォーキング研究：データ解析			
11	骨の測定	26	運動：レクリエーションスポーツ			
12	運動：フィットネス	27	スポーツ栄養サポート：冬季栄養レター作成			
13	スポーツ栄養サポート：夏季栄養レター作成	28	スポーツ栄養サポート：冬季調査準備			
14	スポーツ栄養サポート：夏季調査準備	29	スポーツ栄養サポート：冬季解析			
15	スポーツ栄養サポート：夏季解析	30	活動内容の復習			
予習内容 復習内容	<p>予習：運動栄養学に関する最新の知識の収集。</p> <p>復習：実践活動の反省点を埋めるべく学習。ストレッチ等の身体のケア。</p>					
教科書	教科書は使用しない。講義内容に応じて資料を配付する。					
成績評価	演習に取り組む意欲・態度（60%）、演習中に作成する成果物（40%）					
実務経験						
その他 特記事項	<p>運動着と室内用運動靴、屋外用運動靴が必須である。</p> <p>正規時間外に学習を行うことがある。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	阿部 稚里	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	食と栄養に関する事項は人々の関心が高く、情報も玉石混合である。本演習では、栄養士として他者に食と栄養に関する事項について科学的根拠をもって説明できるように、栄養学研究の基本的な知識を学ぶ。さらに自分で課題を設定して解決するための方法論を、卒業論文作成を通して学ぶ。卒業論文のテーマは栄養教育方法や食育に関連する内容から決定する。卒業論文作成を通し、栄養士として学び続ける意義と方法論を理解することを授業目的とする。					
到達目標	①討論を通して、コミュニケーション能力を養うことができる。 ②食と栄養に関する問題点について、科学的根拠をもって説明することができる。 ③自分で課題を設定し、解決策を論文にまとめる能力を身に付けることができる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	卒業研究の概要	16	卒業論文テーマの情報収集			
2	食や栄養に関する情報収集	17	卒業論文テーマの討論			
3	食や栄養に関する討論	18	調査・研究実施計画作成			
4	文献資料の収集方法	19	調査・研究の対象設定			
5	文献資料の読み方	20	調査・研究の準備			
6	先行研究の手法研究	21	調査・研究の実施			
7	先行研究の収集	22	調査・研究結果の報告			
8	先行研究の背景討論	23	調査・研究結果の討論			
9	先行研究の方法討論	24	卒業論文の背景執筆			
10	先行研究の結果討論	25	卒業論文の方法執筆			
11	先行研究の考察討論	26	卒業論文の結果執筆			
12	データ処理方法の調査	27	卒業論文の考察執筆			
13	データ処理方法の実践	28	卒業論文の指導			
14	データ処理方法の討論	29	卒業論文の討論			
15	卒業論文テーマ設定	30	卒業論文完成			
予習内容 復習内容	予習：食と栄養に関する最近の話題を調査し、資料を作成する。 復習：学んだ内容について考察し、重要事項を各自まとめておく。					
教科書	指定しない。					
成績評価	討論など積極的に取り組む姿勢 30%、卒業論文の評価 70%					
実務経験						
その他 特記事項	資料作り、データ整理、卒業論文の作成、食に関する実地調査など、開講時間以外に活動することがある。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	飯田 津喜美	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	本演習は、①食品の機能性成分と調理過程の影響調査、②県内外の伝統料理探求とレシピ研究に関する調査・研究を行います。また、これまでに学んだ食と健康に関する知識や技術について理解を深め、卒業後の栄養士としての実践的な場面においても活用できる能力を修得することを目的としています。					
到達目標	① 調査・研究の基礎知識や技術を身につける。 ② 栄養士としての実践的な場面において活用できる能力（コミュニケーション力、科学的根拠に基づいた理解・判断力等）を身につける。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	前期ガイダンス・研究テーマ説明		16	後期ガイダンス・研究テーマに関する情報収集		
2	文献・資料の読み解き方		17	本調査・研究計画		
3	文献購読		18	本調査・研究実施		
4	文献内容紹介・報告		19	本調査・研究データ分析		
5	調査・研究方法		20	第 17～19 回報告とまとめ		
6	調査・研究の対象		21	追加調査・研究計画		
7	調査・研究対象に関する情報収集		22	追加調査・研究実施		
8	第 7 回報告とまとめ		23	追加調査・研究データ分析		
9	研究テーマ・研究計画の設定		24	第 21～23 回報告とまとめ		
10	研究計画指導		25	研究まとめ作成		
11	研究テーマに関する情報収集		26	研究まとめ指導		
12	予備調査・研究計画		27	研究まとめ完成		
13	予備調査・研究実施		28	プレゼンテーション案構想		
14	予備調査・研究データ分析		29	プレゼンテーション資料作成		
15	第 12～14 回報告とまとめ		30	研究成果発表		
予習内容 復習内容	必要に応じて適宜指示する。シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。					
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて適宜指示する。					
成績評価	平常点(50%)、成果物(50%)で評価する。平常点は、研究ノートのとまとめや報告等を総合的に評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況により内容を変更することがある。 研究活動を行うためには、受講日以外の自主的な取り組みが必要となる場合がある。 地域や大学と連携したボランティア活動に参加予定である。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	生田 李緒	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>バイオテクノロジーの発展により、栄養士が遺伝子について正しく理解する必要性が増している。今後は、栄養や健康に関わる遺伝子の多型（個人差）に注目した医療や栄養指導が増えてくると考えられる。また、身近になりつつある遺伝子組み換え食品についての正しい知識なども求められる。本演習では、遺伝子や遺伝子多型、遺伝子組み換えについて学習する、またそれらを調べる方法として利用される DNA の抽出方法や PCR 法を実践することで、遺伝子に関する理解を深めることを目的とする。さらに、学んだことや調査したことを文章にまとめる力を養う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 遺伝子、遺伝子多型、遺伝子組み換えについて理解する。 2 調べたことを卒業論文としてまとめる能力を身につける。 					
回	学習内容		回	学習内容		
1	研究テーマの説明		16	遺伝子の変異・多型		
2	遺伝子とは何か		17	遺伝子組み換えについて		
3	DNA 抽出および PCR 法の原理		18	遺伝子組み換え食品の流通		
4	ピペット検定		19	PCR 法の応用		
5	DNA 抽出練習		20	ゲノム編集技術とは		
6	PCR 法		21	遺伝子組み換え食品、ゲノム編集に関する法規制		
7	結果の解釈方法		22	論文の構成について		
8	先行研究の説明		23	先行研究の探し方について		
9	プライマーの確認		24	卒業論文作成—序論の書き方		
10	サンプルの採取—学内		25	卒業論文作成—方法の書き方		
11	サンプルの採取—学外		26	卒業論文作成—結果の書き方		
12	採取したサンプルの確認、DNA 抽出の準備		27	卒業論文作成—考察の書き方		
13	採取したサンプルからの DNA 抽出		28	卒業論文の修正		
14	標的遺伝子の PCR 法による増幅		29	卒業論文の確認		
15	PCR 産物の電気泳動、結果の確認		30	特別演習のまとめ		
予習内容 復習内容	演習内で適宜指示する。					
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。					
成績評価	積極的に取り組む姿勢（40%）、卒業論文（60%）で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正規時間外に学習を行うことがある。 ・ 進捗状況等により学習内容が変わることがある。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	駒田 亜衣	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>将来、栄養士として社会で活躍できるよう、給食管理や食事計画、献立作成、調理実習（大量調理を含む）を実施する。またその他の活動として、必要に応じて公衆栄養学的調査を実施し、栄養士の実務に必要な研究手法を理解する。</p> <p>栄養士として働くにあたり、必要な知識・技術を身につけるとともに、献立検討や大量調理実習への積極的な参加によって豊かなコミュニケーション能力を身につける。</p>					
到達目標	<p>① 栄養士の実務に必要な食事計画を立てる技術が身につく</p> <p>② 実務の中で必要な栄養情報処理能力が身につく</p> <p>③ 豊かなコミュニケーション能力が身につく</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション・ゼミ説明	16	後期予定確認と文献検討			
2	研究テーマの検討	17	研究テーマへの取り組み（データ集計・解析等）			
3	パソコン演習・エクセルの基本的操作	18	調理実習（世界の料理③）			
4	パソコン演習・ワードの基本的操作	19	大量調理を踏まえた食事計画の検討			
5	研究テーマの決定	20	大量調理を踏まえた献立作成			
6	研究テーマへの取組（データ整理）	21	食材の発注と作業工程の確認			
7	テーマに関する文献検索	22	厨房機器の使い方			
8	献立の考案（給与目標量の設定）	23	大量調理実習（試作）			
9	考案献立の発注と調理機器の確認	24	大量調理実習の献立検討			
10	考案献立の試作と検討	25	大量調理実習（考案献立の提供）			
11	調理実習（世界の料理①）	26	実習の課題と改善の検討			
12	調理実習（世界の料理②）	27	大量調理実習の成果報告			
13	考案献立の栄養価計算と評価	28	研究テーマへの取り組みとまとめ（資料作成）			
14	献立の完成	29	研究テーマ報告と評価			
15	考案献立の報告と考察	30	報告内容のグループワーク			
予習内容 復習内容	<p>予習：授業中に調べた文献に目を通す、献立作成に必要な資料を探しておく等</p> <p>復習：授業で実施した内容をノートなどにまとめ、考察する等</p>					
教科書	授業の中で参考文献などを随時紹介する。					
成績評価	研究発表内容やレポート（50%）、本演習に対する取り組み意欲や熱意・大量調理実習の成果等（50%）として評価する。					
実務経験	病院で栄養士・管理栄養士として勤務していました。実務経験を活かし、献立作成の手順、栄養士としての食事計画が立てられる能力、調理の技術を修得できるよう努めます。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	杉野 香江	演習	4		1, 2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	本演習では、①健康増進を目的とした調査研究、②食品から抽出した酵母の活用法の検討を行う。調査研究では、食事摂取内容や食事パターンによる血糖値の変化について、ビタミンDの摂取不足とメンタルヘルスの関連などをテーマに検討を進めている。健康増進、食生活、栄養、食品に関連する幅広い知識と考え方を身につけることを目的とする。					
到達目標	演習を通して、自ら課題を発見し解決する能力を養い、グループ活動により、豊かなコミュニケーション能力を身につけることを到達目標とする。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション・研究テーマの紹介	16	調査に向けての準備と確認			
2	研究テーマの設定	17	調査研究の実施（インフォームドコンセント、アンケートの配布等）			
3	文献資料の読み方	18	調査研究の実施（アンケート回収等）			
4	関連論文紹介	19	調査研究の実施（身体計測の実施等）			
5	研究テーマの資料・文献の収集	20	データの確認と整理			
6	研究テーマの資料・文献の発表	21	データの入力と解析			
7	研究テーマの資料・文献の評価	22	食事調査の解析			
8	調査研究の方法	23	調査結果のまとめと考察の方法			
9	調査研究の対象と個人情報の管理	24	調査結果の考察			
10	研究計画の作成	25	研究報告の作成			
11	研究計画の修正と確認	26	酵母の利用計画			
12	血糖値測定の方法	27	酵母を利用した食品の加工（試作）			
13	試験食の作製	28	酵母を利用した食品の加工（完成）			
14	食品摂取後の血糖値の変動	29	研究報告の完成			
15	血糖値測定結果の分析	30	特別演習のまとめ			
予習内容 復習内容	適宜指示する。					
教科書	参考資料を適宜配布する。					
成績評価	演習に積極的に取り組む姿勢（60%）と研究レポート（40%）によって評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容は一例です。進捗状況によって変更します。 ・調査研究や実験を行うにあたり、受講日以外の研究活動が必要となる場合があります。 ・受講生は、グループで協力して研究活動に参加し、理解を深めます。 ・地域連携活動（世界の料理）への参加希望者は、調理実習を行うことも可能です。 					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	服部 知美	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>本演習では、国の制度上の食品である保健機能食品(特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品)のうち特に機能性表示食品について学習、調査、献立開発等の研究を行う。</p> <p>はじめに保健機能食品制度が開始された目的や制度の内容を学習して理解を深める。</p> <p>その後、日常の食生活に役立てるために機能性表示食品をいかに分かりやすく食事の献立にアレンジして国民に示すか、さらに単品だけでなく一食として栄養価、味や量のバランス、彩りにも配慮した献立の開発へと発展させる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 調理試作と検討を重ねて完成度を高め、喫食者に喜ばれる食事づくりができる。 開発献立を指導媒体例として、保健機能食品の正しい理解と利用を目的とした栄養指導ができる。 					
回	学習内容	回	学習内容			
1	保健機能食品の概要	16	機能性表示食品バランス弁当の立案			
2	機能性表示食品の学習 1 届け出情報の検索	17	機能性表示食品バランス弁当の栄養価計算			
3	機能性表示食品の学習 2 科学的根拠について	18	機能性表示食品バランス弁当の調理試作			
4	機能性表示食品を使用した 1 品料理の献立作成	19	バランス弁当試作品の分量修正等再試作及び分量確定			
5	機能性表示食品を使用した 1 品料理の調理試作	20	試作予備日及び最新の機能性表示食品届け出情報調査			
6	1 品料理試作の分量修正等の再試作及び分量確定	21	バランス弁当のレシピ集作成作業			
7	機能性表示食品を使用したバランス食の立案 1 回目	22	機能性表示食品を使用した自由献立の立案			
8	機能性表示食品バランス食の栄養価計算 1 回目	23	機能性表示食品自由献立の栄養価計算			
9	機能性表示食品バランス食の調理試作 1 回目	24	機能性表示食品自由献立の調理試作			
10	バランス食 1 回目試作の分量修正等の再試作及び分量確定	25	自由献立試作品の分量修正等の再試作及び分量確定			
11	機能性表示食品を使用したバランス食の立案 2 回目	26	試作予備日及び最新の機能性表示食品届け出情報調査			
12	機能性表示食品バランス食の栄養価計算 2 回目	27	自由献立のレシピ集作成作業			
13	機能性表示食品バランス食の調理試作 2 回目	28	レシピ集作成作業完成			
14	バランス食 2 回目試作の分量修正等の再試作及び分量確定	29	栄養指導媒体づくり			
15	1 品料理、バランス食のレシピ集作成作業	30	成果発表会			
予習内容 復習内容	献立に使用する保健機能食品や原案を考え、調理試作までに自宅等で前試作を行うこと					
教科書	教科書は使用しない。演習内容に応じて資料を配布する。					
成績評価	出席時に確認する予習内容 30%、調査、献立作成、調理全般に取り組む姿勢 70%、合計 100%					
実務経験	管理栄養士として病院、学校給食、特定保健指導の経験を有します。実務経験をもとに栄養バランスのとれたおいしい食事作りのための演習をします。					
その他 特記事項	正規時間外に学習を行うことがある。進度により内容変更や新たな調査を追加する場合がある。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
特別演習	福安 智哉	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>遺伝子組み換え食品が市場に出回りつつある。しかしながら消費者側の遺伝子組み換え技術への理解はとて十分であるとは言えず、少々の誤解も見受けられる。その事もあってか、遺伝子組み換え食品へのネガティブな意見は少なくない。</p> <p>そこで当演習では、遺伝子に着目し、遺伝子組み換えとはどのようにして行われているのか、また遺伝子組み換えが行われた作物の問題点についての講義、自生植物から抽出した DNA を PCR 法にて調査することで、遺伝子組み換え技術を正しく理解することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①遺伝子組み換えに関して理解する。</p> <p>②PCR 法について理解する。</p> <p>③ゲノム編集技術について理解する。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	ガイダンス：研究テーマの説明、遺伝子とは何か		16	応用：遺伝子変異に関する調査の現状、発展		
2	基礎知識：遺伝子変異とは。その調査方法		17	応用：遺伝子組み換え、遺伝子治療とは		
3	練習①：DNA 抽出の練習（食品）		18	遺伝子組み換え食品の流通に関する調査		
4	練習②：DNA 抽出の練習（植物）		19	応用：PCR 法の応用とその活用について		
5	練習③：PCR 法の練習、プライマーの選択		20	論文調査：論文の読み方について		
6	練習④：結果の解釈方法		21	論文調査：論文の探し方について		
7	これまでの調査結果に関して		22	現状確認：遺伝子組み換えセイヨウナタネの分布		
8	プライマーの効果確認		23	現状確認：遺伝子組み換え食品の問題点		
9	セイヨウナタネとその近縁種に関して		24	成果物作成：結果の解釈、採集箇所の再確認		
10	セイヨウナタネの検索、採集（新規スポット）		25	成果物作成：序論、方法の書き方		
11	セイヨウナタネの検索、採集（継続調査箇所）		26	成果物作成：結果、考察の書き方		
12	採集箇所の記録、採集物の確認・洗浄、破碎		27	成果物の確認・修正		
13	対象となる植物からの DNA 抽出		28	遺伝子組み換え食品の法規制		
14	標的遺伝子の PCR 法による増幅		29	ゲノム編集技術の法規制と現状		
15	PCR 産物の電気泳動、結果の確認		30	ゲノム編集技術の現状と発展		
予習内容 復習内容	<p>1 回目までに遺伝子の構造について復習しておく。</p> <p>2 回目以降の予習復習は演習内にて指示を行う。</p>					
教科書	教科書は使用しない。講義内容に応じて資料を配布する。					
成績評価	成果物にて評価を行う（100%）					
実務経験						
その他 特記事項	<p>正規時間外に学習を行うことがある。</p> <p>やむを得ず欠席する場合は連絡すること。演習内でやってみたいことなどについて積極的な発言を期待する。</p>					